

阪南市埋蔵文化財報告 XXIII

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XIII

1998年

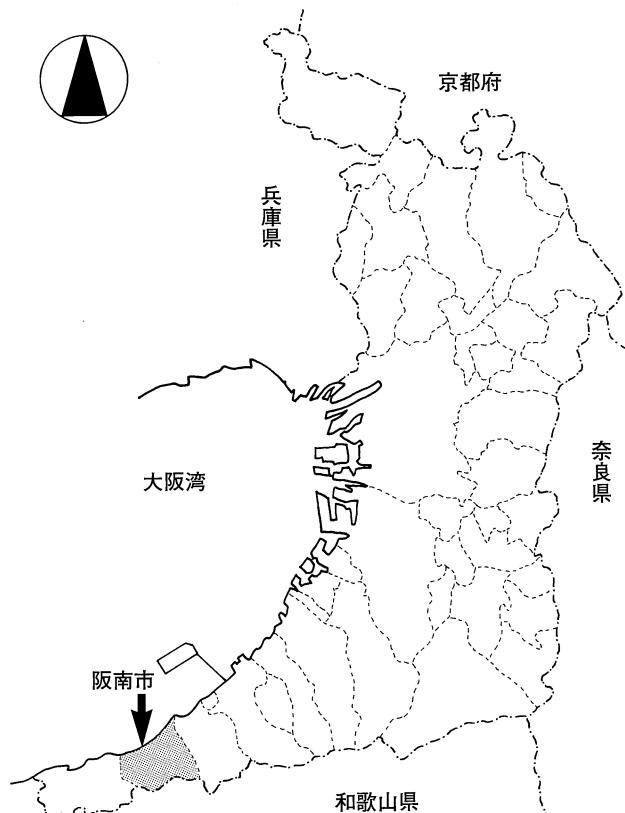
阪南市教育委員会

例　　言

1. 本書は、阪南市教育委員会が、平成9年度国庫補助事業として計画し、社会教育課が担当実施した阪南市内遺跡発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、阪南市教育委員会社会教育課三好義三、田中早苗、上野 仁を担当者として実施した。
3. 本書内に示した標高は、T.P.であり、方位は既製の地形図等を使用したものを除いて磁北である。
4. 調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
5. 本書の執筆および編集は、上記の調査担当者が行った。また、実測図等の作成は、下記の調査従事者による。
6. 本調査における記録は、実測図面、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

(調査従事者)

宇沢克之、辻野 勝、太田敏治、伊庭 勉、甲斐 易、松原仁司、和田旬世、井上祥子、井上 進、福森由記、射手矢由紀子、外池美渡里、滝本奈保子、木村真喜、池田佳世子



第1図　阪南市位置図

— 目 次 —

第1章 調査の成果

第1節 尾崎海岸遺跡	(1) 97-1区	1
	(2) 97-2区	2
第2節 馬川遺跡	(1) 97-1区	
	(2) 97-2区	3
第3節 神光寺(蓮池)遺跡	(1) 97-1区	
第4節 向出遺跡	(1) 97-1区	4
第5節 自然田遺跡	(1) 97-1区	5
第6節 鳥取北遺跡	(1) 97-1区	6
	(2) 97-2区	7
	(3) 97-3区	
第7節 西鳥取遺跡	(1) 97-1区	8
	(2) 97-3区	
第8節 貝掛遺跡	(1) 96-4区	9
	(2) 96-5区	12
	(3) 96-6区	13
	(4) 97-1区	
第9節 箱作今池遺跡	(1) 96-8区	16
	(2) 96-9区	17
	(3) 97-1区	
	(4) 97-2区	18
	(5) 97-3区	19
第10節 田山遺跡	(1) 96-1区	22

第1章 調査の成果

第1節 尾崎海岸遺跡

当市の北東部、文字通り海岸部に位置する。近世期に街場として栄えた「尾崎村」のほぼ中心部にあたる。既往の調査では、庄内式土器や布留式土器とともに大量の製塩土器が出土し、製塩遺跡として知られる。

(1) 97-1区

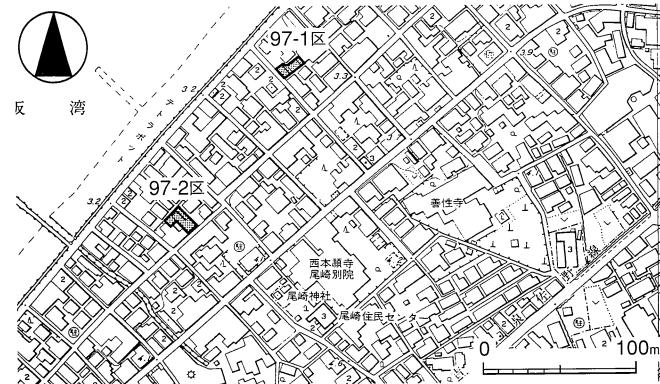
a. 調査の概要（第2・3・4図）

調査区は、本遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区内の西部に2m×1mのトレンチを設定し行った。

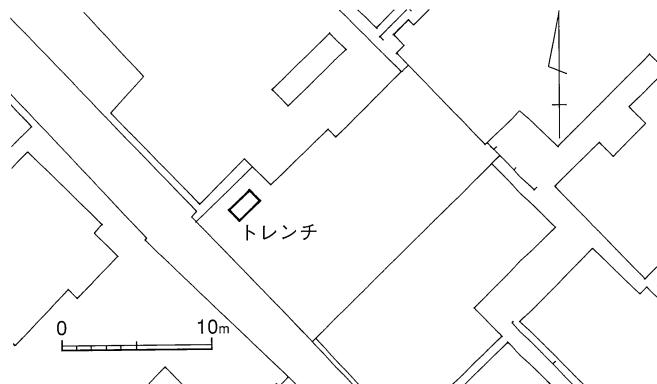
基本層序は、第1層盛土、第2層明黄色砂、第3層明茶黄色砂、第4層黄灰白色砂（地山）であった。遺構は検出されず、遺物は以下のとおりである。

b. 遺物（第5図）

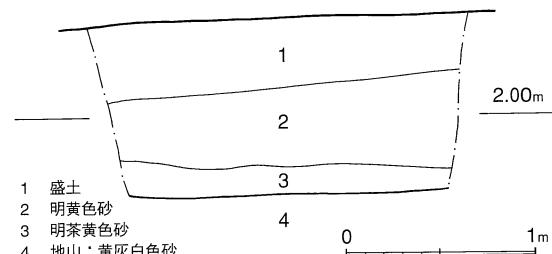
第2層から土師質土器、陶器、瓦、第3層から土師質蜻壺、土師質管状土錘が出土した。図化し得たのは以下の2点であった。1は左巴文軒丸瓦で瓦当の形態から近世期のものと考えられ第2層から、2および3は土師質管状土錘で第3層から出土した。



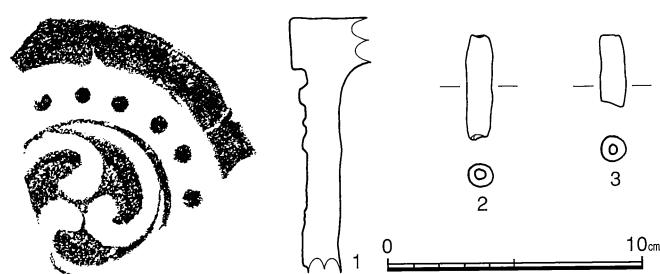
第2図 尾崎海岸遺跡 調査区位置図



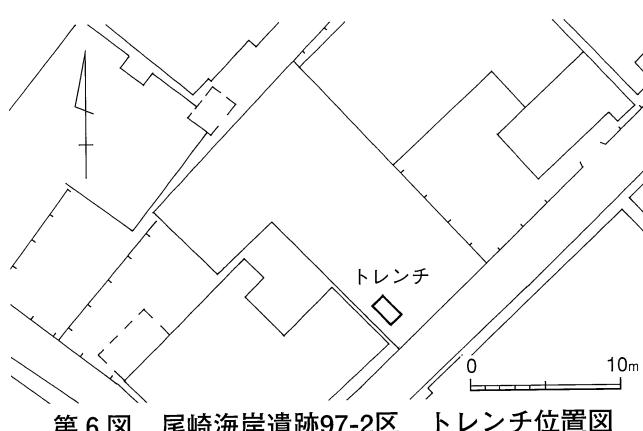
第3図 尾崎海岸遺跡97-1区 トレンチ位置図



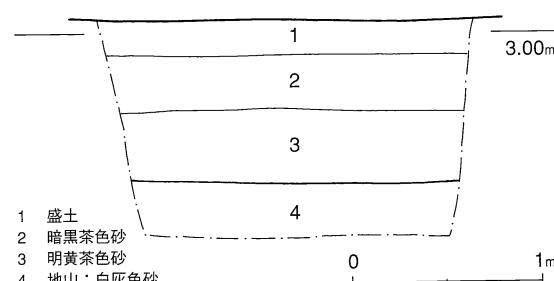
第4図 尾崎海岸遺跡97-1区 トレンチ北側断面図



第5図 尾崎海岸遺跡97-1区 出土遺物



第6図 尾崎海岸遺跡97-2区 トレンチ位置図



第7図 尾崎海岸遺跡97-2区 トレンチ東側断面図

(2) 97-2区

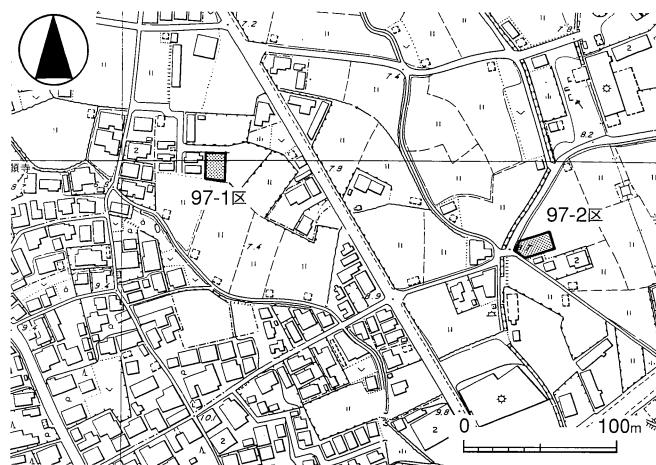
a. 調査の概要（第2・6・7図）

調査区は、97-1区の南西部に位置する。調査は、調査区内の南部に2m×1mのトレンチを設定し行った。

基本層序は、第1層盛土、第2層暗黒茶色砂、第3層明黄茶色砂、第4層白灰色砂（地山）である。遺構は検出されず、遺物は第2層から土師質土器、土師質管状土錘、磁器、瓦が出土したが、細片のため図化し得なかった。

第2節 馬川遺跡

当市の東端部を流れる男里川左岸に位置する。縄文時代～近世期にかけての遺跡として周知されている。これまでの調査で特徴的な点は、遺跡南部の調査で古代末～中世初期のものと思われる複弁蓮華文軒丸瓦が出土しており、寺院跡の存在が想定されている。また、西端部の調査では、中世期の蛸壺を焼成した遺構が確認されている。



第8図 馬川遺跡 調査区位置図

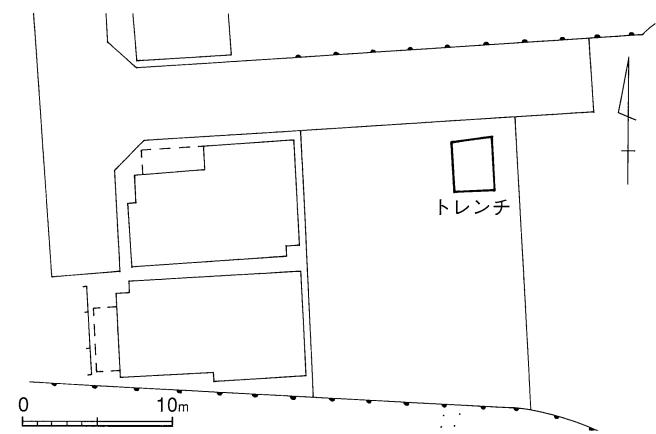
(1) 97-1区

a. 調査の概要（第8・9・10図）

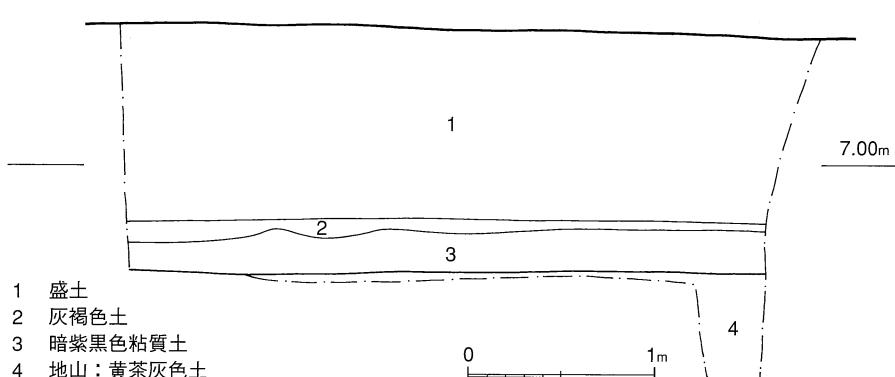
調査区は、本遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区内の北部に3.7m×2.7mのトレンチを設定し行った。

基本層序は、第1層盛土、第2層灰褐色土、第3層暗紫黒色粘質土、第4層黄茶灰色土（地山）であ

る。遺構は検出されず、遺物は第3層から弥生式土器、土師器、須恵器、綠泥片岩が出土したが、いずれも細片のため、図化し得なかつた。



第9図 馬川遺跡97-1区 トレンチ位置図



第10図 馬川遺跡97-1区 トレンチ西側断面図

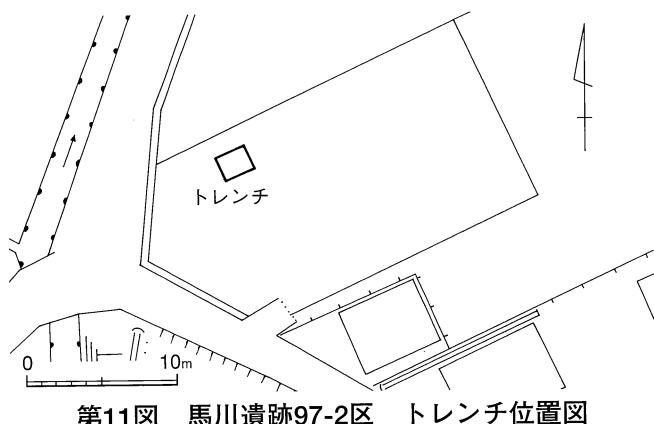
(2) 97-2区

a. 調査の概要（第8・11・12図）

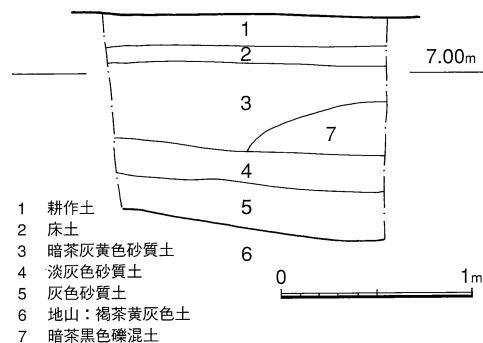
調査区は、本遺跡の東端部に位置する。調査は、調査区内の西部に2m×1.5mのトレンチを設定し行った。

基本層序は、第1層耕作土、第2層床土、第3層暗茶灰黄色砂質土、第4層淡灰色砂質土、第5層灰色砂質土、第6層褐茶黃灰色土（地山）である。

遺構は検出されず、遺物は第3層から陶器、第4層から湊焼の甕、中世期の瓦が出土した。遺物はいずれも細片のため、図化し得なかった。



第11図 馬川遺跡97-2区 トレンチ位置図



第12図 馬川遺跡97-2区
トレンチ北側断面図

第3節 神光寺（蓮池）遺跡

本市の東部中央に位置する。縄文時代草創期の有茎尖頭器が採集されている。また、弥生時代中期の方形周溝墓や流路、中世～近世期に存在した神光寺の跡が発掘調査で確認されている。

(1) 97-1区

a. 調査の概要（第13・14・15図）

本調査区は、神光寺（蓮池）遺跡の西端部に位置している。周辺には条里制の名残がみられる。調査は、調査区の北西部分に2.5m×2mのトレンチを設定して実施した。第1層耕作土以下に、第2層褐色土、第3層淡茶色土の遺物包含層が存在した。第4層は褐青灰色土（地山）である。遺構として溝を確認した。遺物は、須恵器、土師質土器等が出土した。

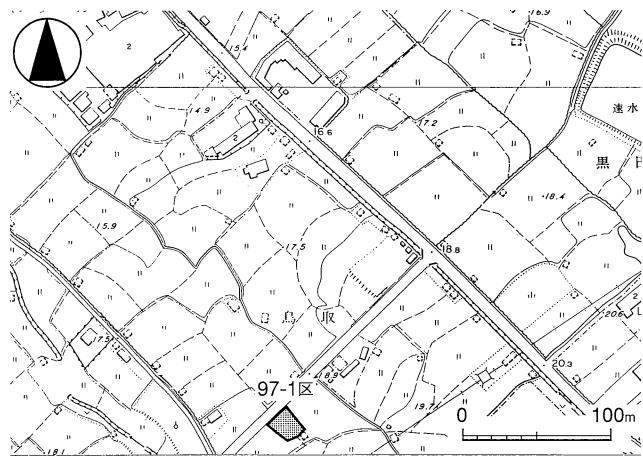
b. 遺構（第15図）

—溝1—

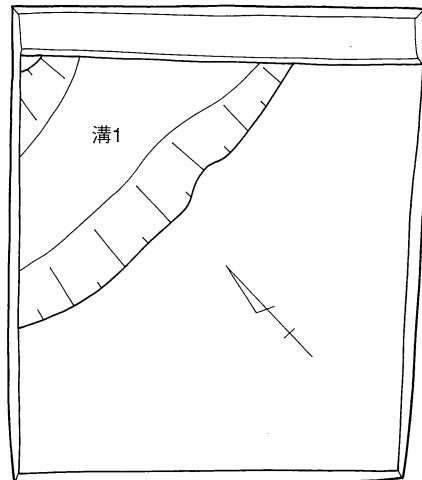
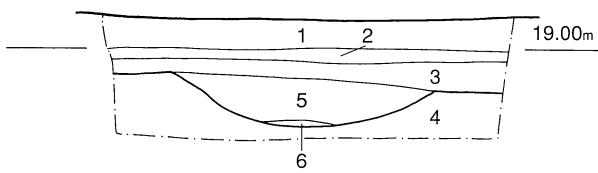
東から西に延びる。幅約1.1m、確認面からの深さ28cmを測る。埋土内から須恵器の小片が出土したが、明確な時期は不明である。

c. 遺物（第16図）

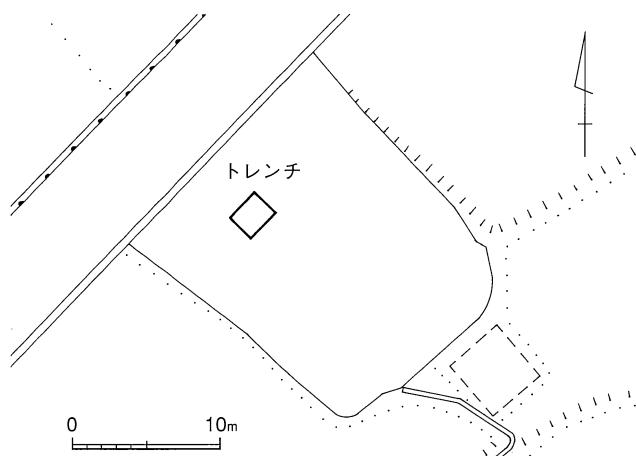
第2・3層から須恵器、瓦器等が出土したが、図化し得た遺物は1点のみであった。1は土師質土器の皿で、いわゆる白土器と呼ばれるものである。



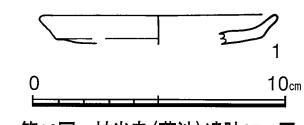
第13図 神光寺(蓮池)遺跡 調査区位置図



第15図 神光寺(蓮池)遺跡97-1区
トレンチ平面図・東側断面図



第14図 神光寺(蓮池)遺跡97-1区
トレンチ位置図



第16図 神光寺(蓮池)遺跡97-1区
出土遺物

第4節 向出遺跡

男里川水系の山中川と菟砥川に挟まれた段丘上に位置する。これまでの分布調査では、サヌカイト製の石鏃や剥片が採取されているのをはじめ、発掘調査では縄文時代後期の縁帶文系や晩期の凸帯文系の土器が出土している。

(1) 97-1区

a. 調査の概要（第17・18・19図）

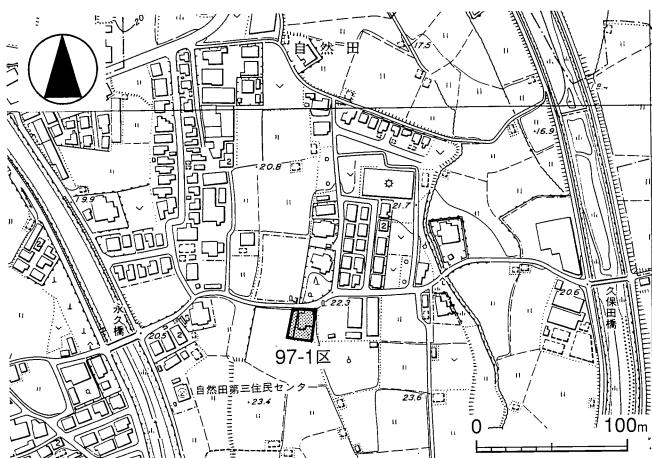
調査区は、本遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区内の北東部に3m×1.7mのトレンチを設定し行った。

基本層序は、第1層盛土、第2層淡灰茶色土、第3層淡灰茶色礫混土、第4層淡茶灰色土、第5層淡茶灰色礫混土（地山）である。

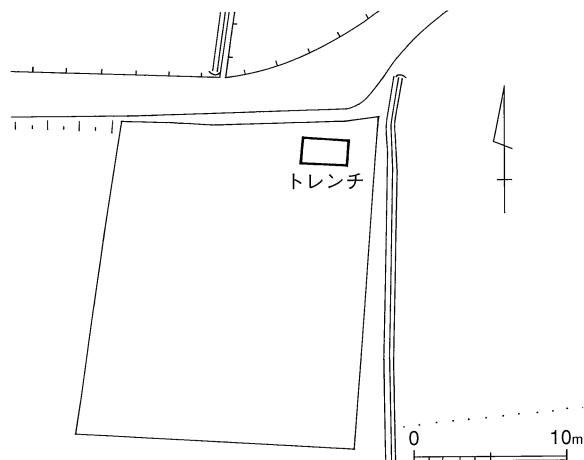
遺構は検出されず、遺物は第3・4層からサヌカイト、須恵器、瓦器、土師質土器、土師質蛸壺、陶器が出土した。

b. 遺物（第20図）

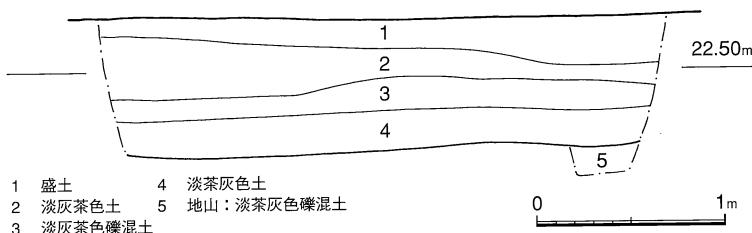
1は土師質蛸壺の口縁部で、中世期のものである。



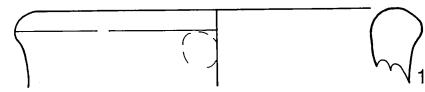
第17図 向出遺跡 調査区位置図



第18図 向出遺跡97-1区 トレンチ位置図



第19図 向出遺跡97-1区 トレンチ南側断面図



第20図 向出遺跡97-1区 出土遺物

第5節 自然田遺跡

既往の調査では、中世期の溝や流路等の遺構が検出され、遺物としてはサヌカイト製ナイフ型石器をはじめ、瓦器、土師質土器等が出土している。遺跡の南隣には古墳時代後期の玉田山古墳群がある。

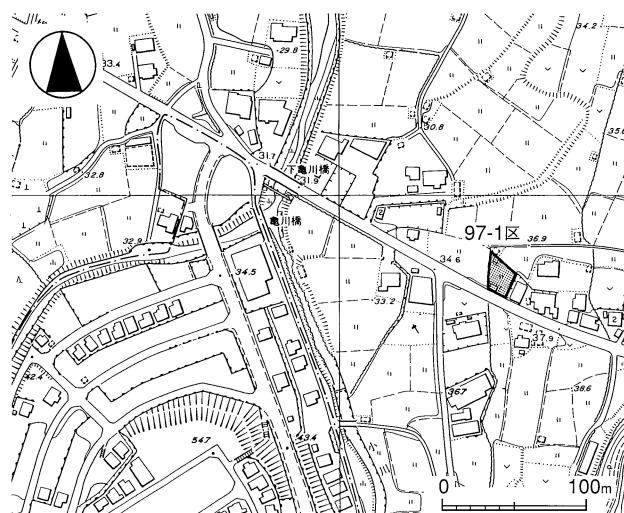
(1) 97-1区

a. 調査の概要（第21・22・23図）

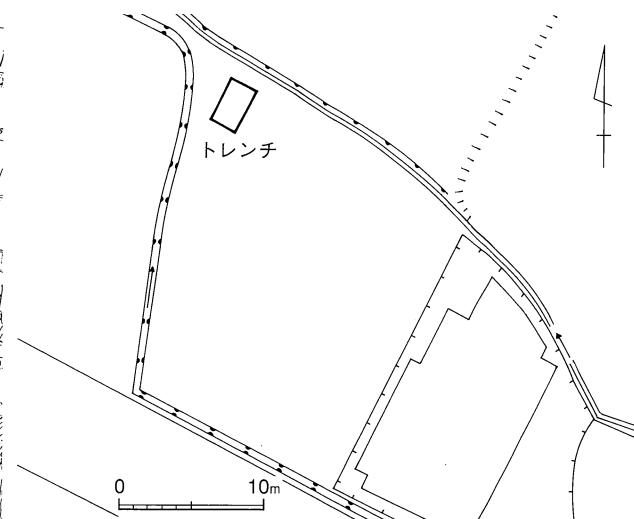
調査区は、本遺跡の西部に位置する。調査は、調査区内の北部に3.2m×2mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第1層盛土、第2層床土、第3層淡黄灰色砂質土、第4層黄灰茶色土（地山）である。遺構は検出されず、遺物は第3層から弥生式土器、土師器、須恵器、中世期の陶器が出土した。

b. 遺物（第24図）

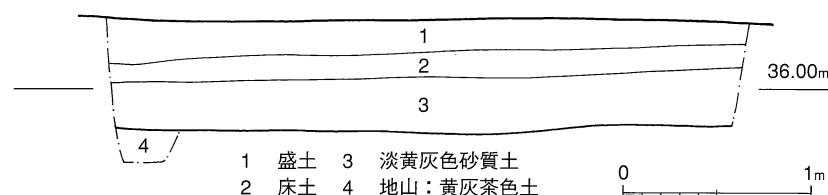
1は弥生式土器甕の底部、2は須恵器器台の脚部、ともに第3層から出土した。



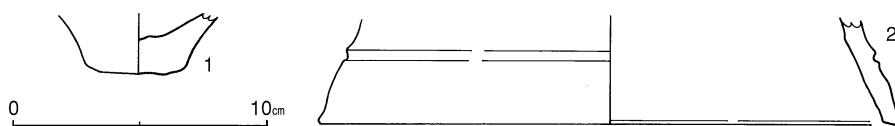
第21図 自然田遺跡 調査区位置図



第22図 自然田遺跡97-1区 トレンチ位置図



第23図 自然田遺跡97-1区 トレンチ西側断面図



第24図 自然田遺跡97-1区 出土遺物

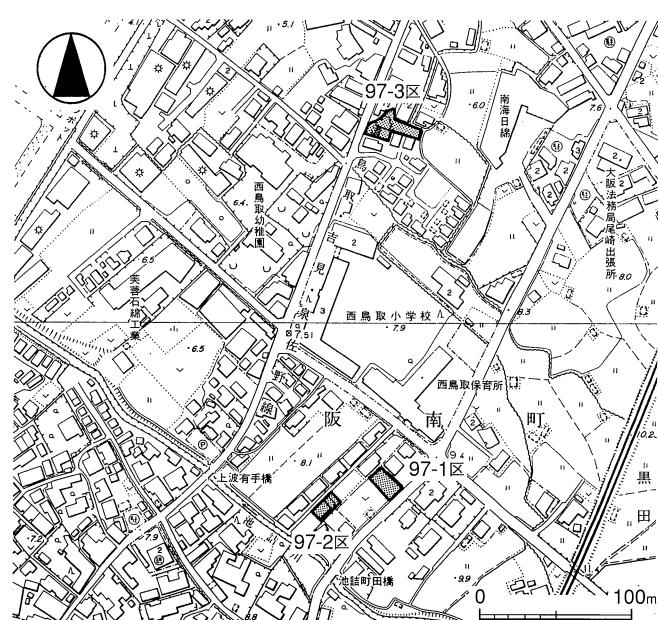
第6節 鳥取北遺跡

これまで大規模な調査が実施されたことがなく、遺跡の明確な性格は把握されていない。1997年度の調査では近世期の土坑や溝が確認されている。

(1) 97-1区

a. 調査の概要 (第25・26・27図)

調査区は、本遺跡の南部に位置する。調査は、調査区内の北部に3m×1.3mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡茶色土、第4層淡黄色土（地山）である。遺構、遺物ともに検出されなかった。



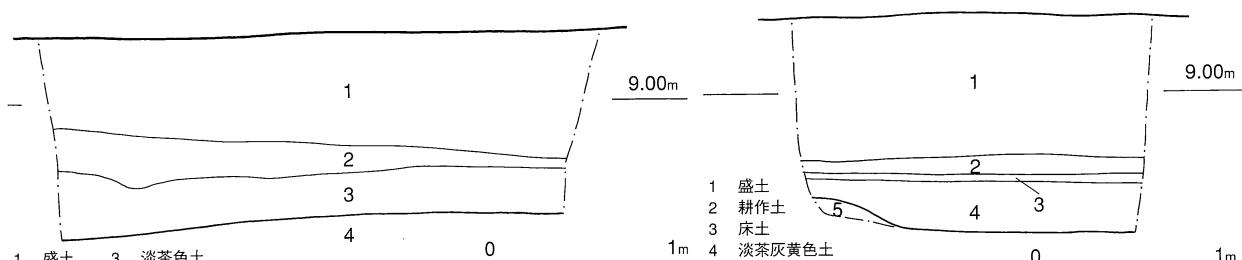
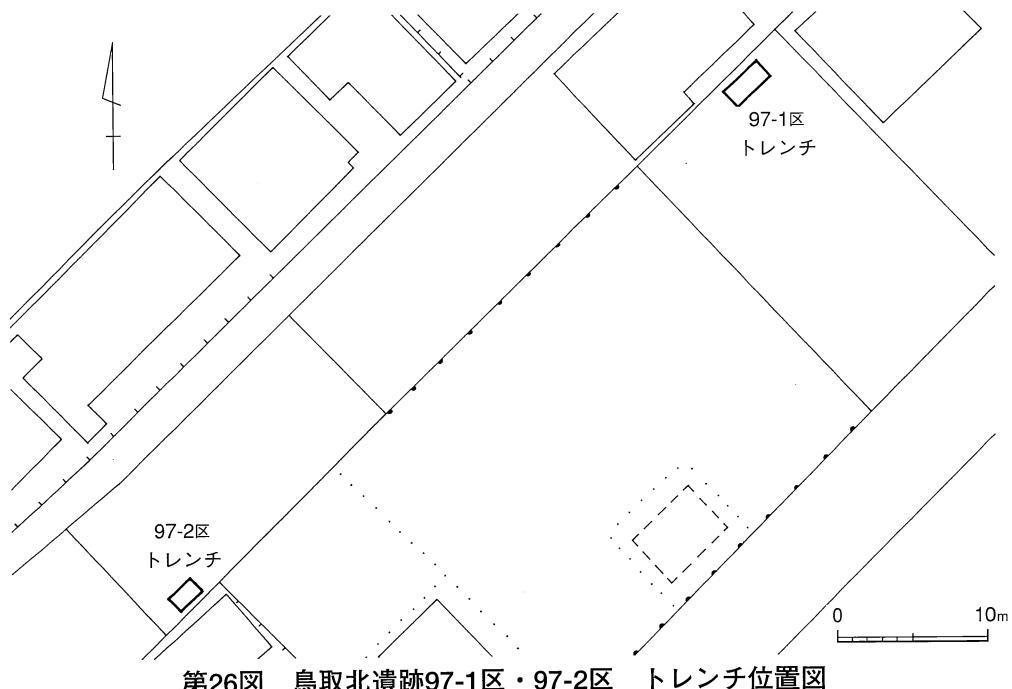
第25図 鳥取北遺跡 調査区位置図

(2) 97-2区

a. 調査の概要 (第25・26・28図)

調査区は、本遺跡の南部に位置する。調査は、調査区内の南部に2m×1.2mのトレンチを設定し行った。

基本層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層淡茶灰黄色土、第5層明黄灰色土（地山）である。遺構は検出されず、遺物は第4層から瓦、土師質土器が出土した。それぞれ近世期のものと思われる。

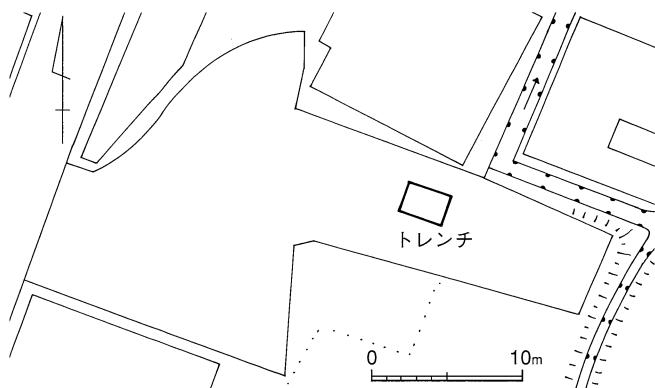


(3) 97-3区

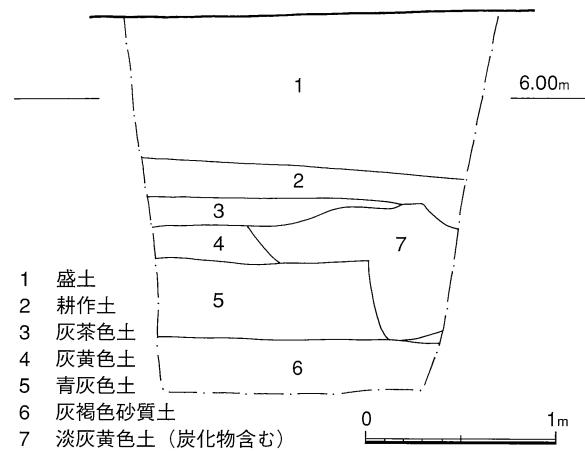
a. 調査の概要 (第25・29・30図)

本調査区は鳥取北遺跡の北東端部に位置する。調査区内に3m×2mのトレンチを設定して行った。盛土、耕作土以下の基本的層序は、第3層灰茶色土、第4層灰黄色土、第5層青灰色土、第6層灰褐色砂質土の順である。盛土の上面から約2mの深さまで掘削を行ったが、地山は確認できなかった。明確な遺構は検出されなかった。遺物は、第2～6層から

土師質土器、瓦器、瓦、須恵質土器等が出土した。出土遺物はいずれも小片であったため、図化にはいたっていない。



第29図 鳥取北遺跡97-3区 トレンチ位置図



第30図 鳥取北遺跡97-3区 トレンチ東側断面図

第7節 西鳥取遺跡

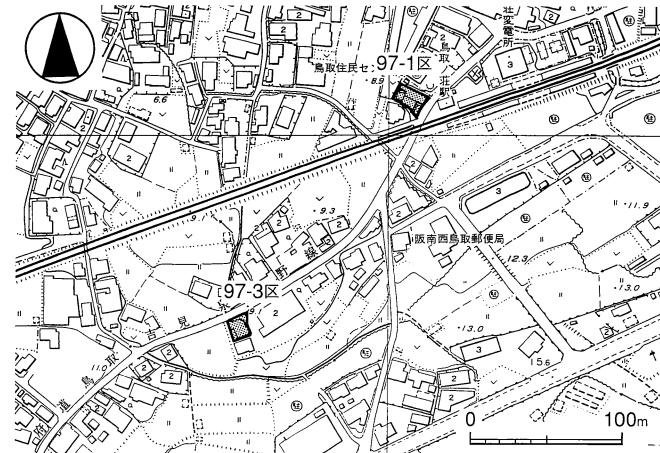
市域の北部に位置する。鳥取北遺跡と同様1988年に実施した分布調査で周知された。これまでの調査では、住居跡等の遺構は確認されていないものの、瓦器や陶磁器等の生活雑器とともに土錘や蛸壺といった漁具が出土している。また、舶載青磁が出土していることも注目すべき点である。

(1) 97-1区

a. 調査の概要 (第31・32・33図)

調査区は、本遺跡の北部に位置する。調査は、調査区内の南部に3m×1.5mのトレンチを設定し行った。

基本層序は、第1層盛土、第2層床土、第3層灰白色砂質土、第4層明黄灰色粘土（地山）である。遺構は検出されず、遺物は第3層から土師質土器、瓦、磁器が出土し、それぞれ近世期のものと思われる。



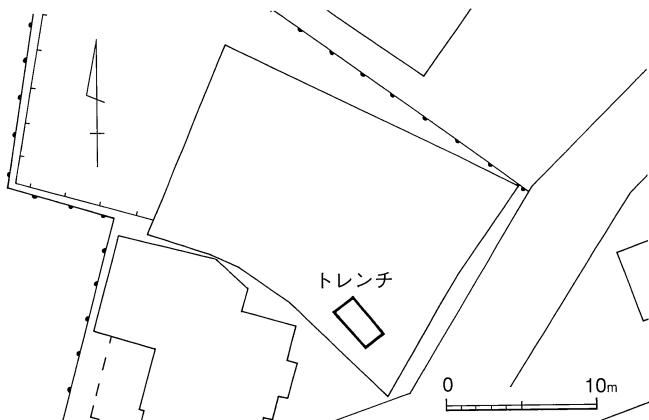
第31図 西鳥取遺跡 調査区位置図

(2) 97-3区

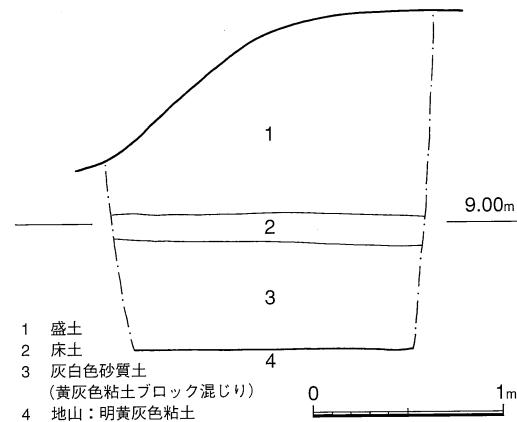
a. 調査の概要 (第31・34・35図)

調査区は、本遺跡の西部に位置する。調査は、調査区内の北部に2m×1mのトレンチを設定し行った。

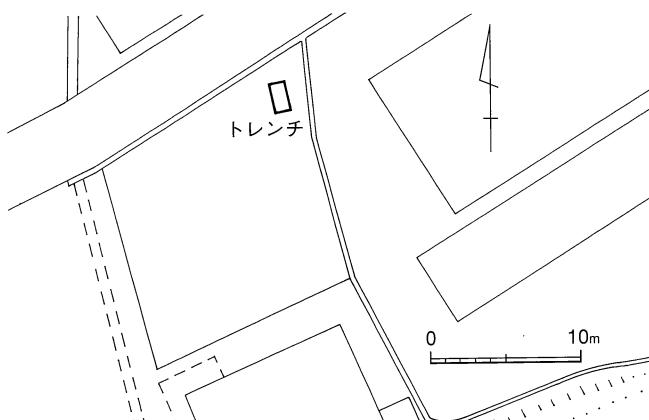
基本層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層青灰白色土、第4層黄茶灰色粘土（地山）である。遺構は検出されず、遺物は第3層から須恵器、陶器が出土したが、いずれも細片のため、図化し得なかった。



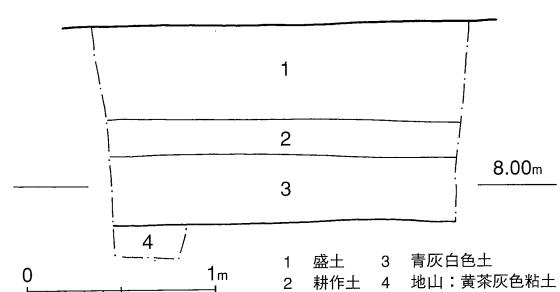
第32図 西鳥取遺跡97-1区 トレンチ位置図



第33図 西鳥取遺跡97-1区
トレンチ南側断面図



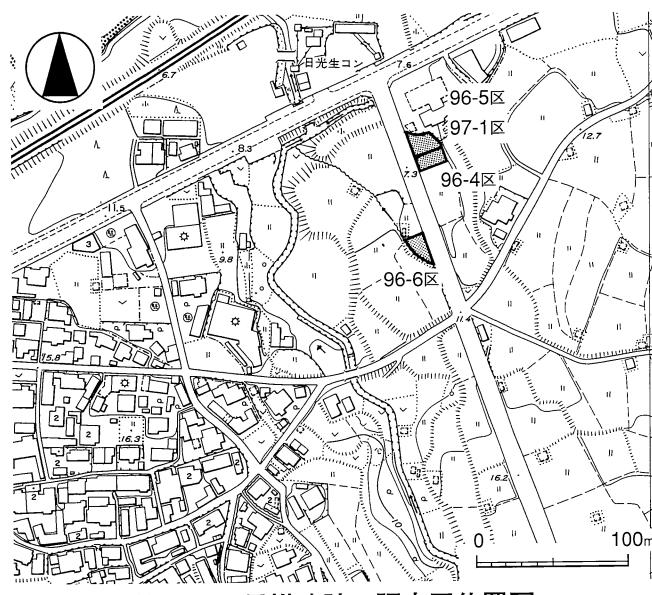
第34図 西鳥取遺跡97-3区 トレンチ位置図



第35図 西鳥取遺跡97-3区
トレンチ東側断面図

第8節 貝掛遺跡

本市北部のほぼ中央部、釈迦坊川と花折川に挟まれた段丘上に位置する。これまでの調査では、縄文時代の石鏃や石槍をはじめ、奈良時代の建物跡とそれに伴う土器、中世期の遺構や遺物等が検出されている。特筆すべきものとして、1990年度の調査で、金環や奈良三彩八曲長壺の高台部が出土している。



第36図 貝掛遺跡 調査区位置図

(1) 96-4区

a. 調査の概要（第36・37図）

調査は調査区内に 2 m × 2 m 程度のトレンチを 8 カ所設定して実施した。基本層序は第 1 層盛土、第 2 層耕作土、第 3 層灰白色土、第 4 層暗灰色土、第 5 層明黄灰色土（地山）である。地山面は釧路坊川に向かって東から西側に傾斜している。1 トレンチより溝と思われる遺構が検出されたが、他のトレンチから遺構は検出しなかった。第 3・4 層より須恵器、土師器、瓦器等が出土した。

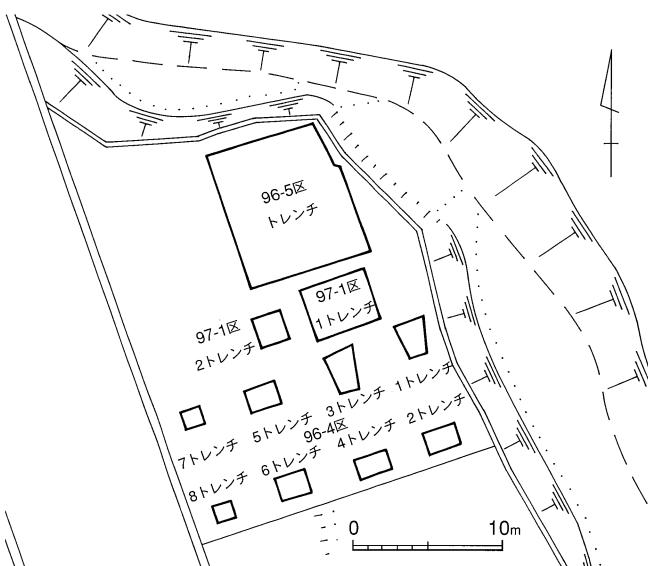
b. 遺構（第38図）

—溝 1—

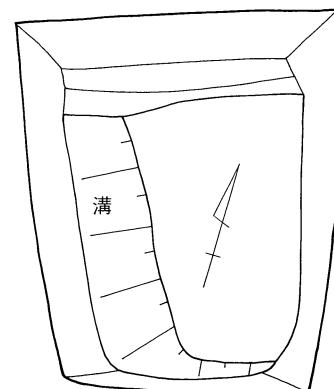
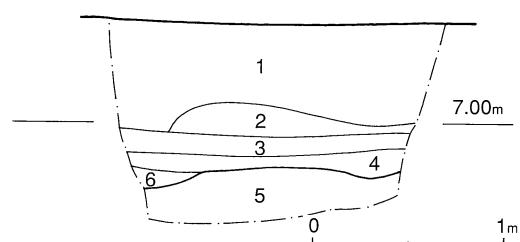
埋土は灰色土で須恵器、土師器、瓦器等が出土した。中世期の遺構と思われる。

c. 遺物（第39・40図）

1 は須恵器の甕、2 は土師器の甕、3 は瓦器塊である。以上の 3 点は溝 1 から出土した。以下の 4 ~ 26 は第 3・4 層からの出土である。4 ~ 21 は須恵器で 4 ~ 8 は壊蓋、9 ~ 19 は壊身、20 は壺口縁部、21 は高壺脚部である。22・23 は土師質甕の口縁部、24 は瓦器塊、25・26 は瓦器皿である。27・28 は須恵器壊身、29 は瓦質甕で調査区内から出土した。

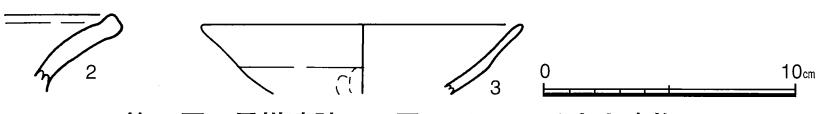
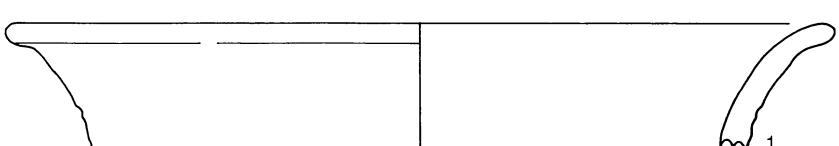


第37図 貝掛遺跡96-4区・96-5区・97-1区
トレンチ位置図

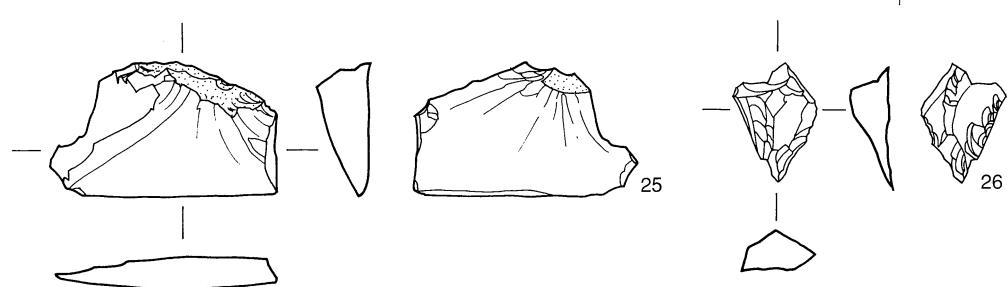
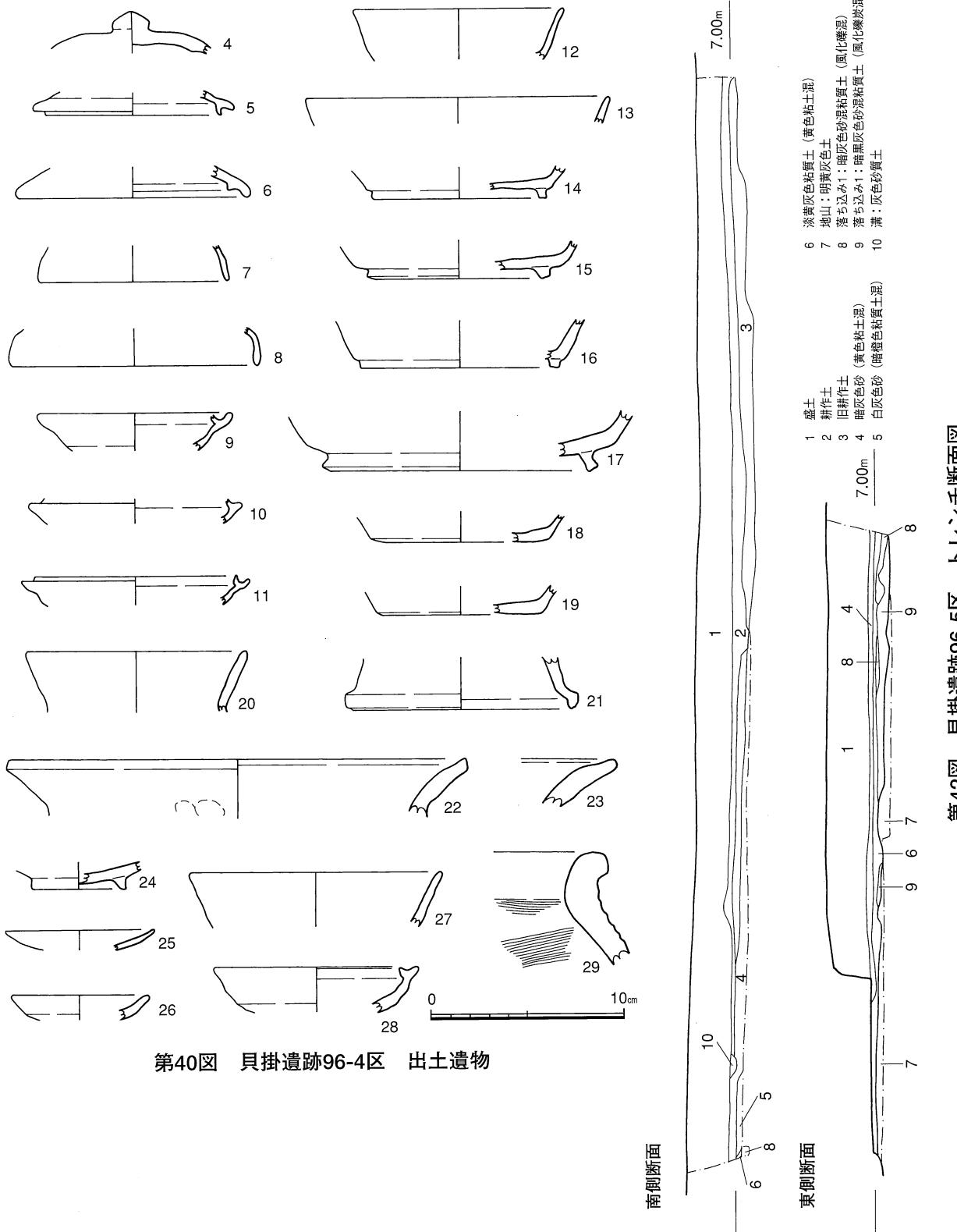


- 1 盛土
- 2 耕作土
- 3 灰白色土（橙色砂マンガン粒、礫混じり）
- 4 暗灰色土（マンガン粒、礫混じり）
- 5 地山：明黄灰色土
- 6 溝1：灰色土（橙色粘土、マンガン粒、礫混じり）

第38図 貝掛遺跡96-4区
1トレンチ平面図・北側断面図



第39図 貝掛遺跡96-4区 1トレンチ出土遺物



第41図 貝掛遺跡96-5区 出土遺物

(2) 96-5区

a. 調査の概要 (第36・37・42図)

調査区は、本遺跡の北部に位置する。調査は、調査区内に $9\text{m} \times 8\text{m}$ のトレンチを設定し行った。基本層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層旧耕作土、第4層暗灰色砂、第5層白灰色砂、第6層淡黄灰色粘質土、第7層明黄灰色土（地山）である。遺構は地山面でピット1、土坑2、落ち込み1を検出した。今回の工事では遺構面に影響が及ばないため、遺構の掘削は行わなかった。遺物は下記に示すように、土師器、須恵器、製塩土器等が出土した。

b. 遺構

—土坑1—

検出面での幅80cmを呈する。埋土は灰黄色土である。

—土坑2—

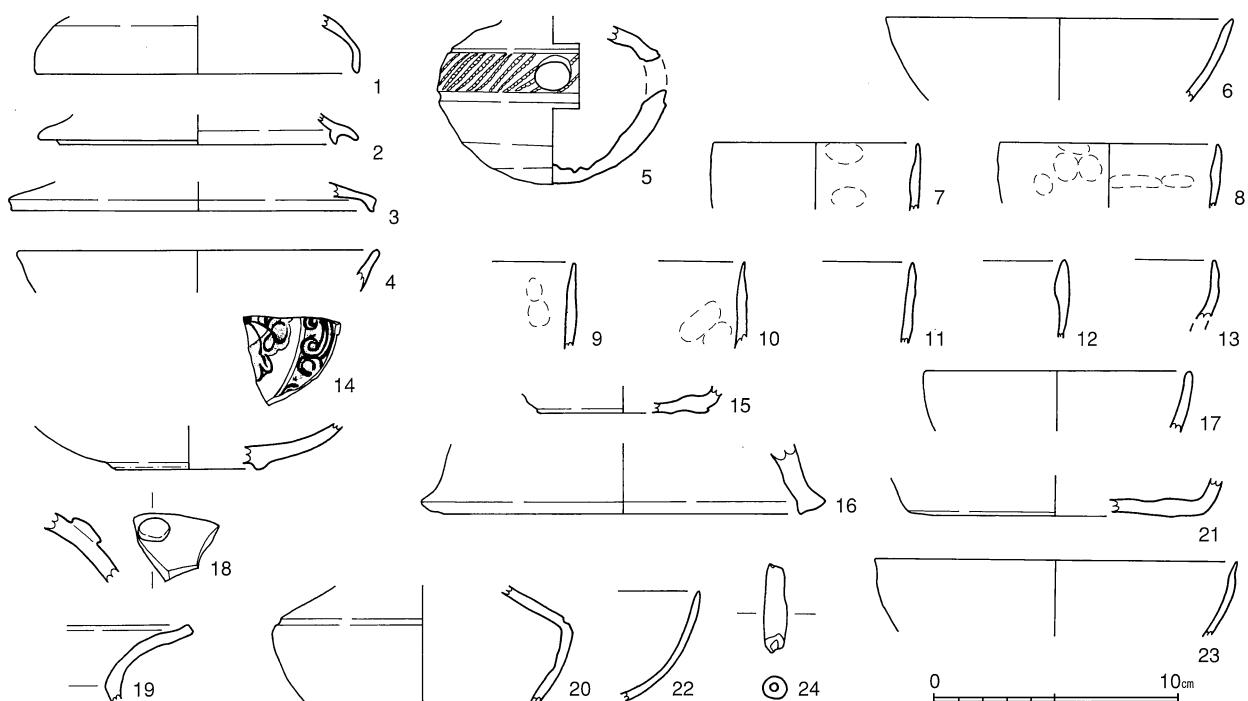
土坑2は幅1m以上で、埋土は同じく灰黄色土である。

—ピット1—

径約50cm、埋土は灰黄色土である。

—落ち込み1—

上述のように、遺構の掘削を行わなかったが、落ち込み1については、一部サブトレンチを設け、その埋没状況や深さ等を確認した。幅6m以上、深さは20cm以上を測る。埋土は暗灰色砂混粘質土、暗黒灰色砂混粘質土である。土師器、須恵器と多量の製塩土器が出土した。奈良時代の遺構と思われる。



第43図 貝掛遺跡96-5区 出土遺物

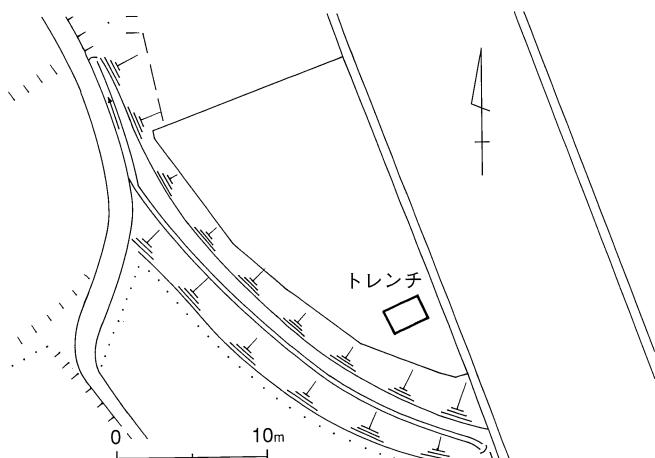
c. 遺物（第41・43図）

1から13は落ち込み1から出土した。1～5は須恵器の蓋壺と甌、6は土師器壺、7～13は製塩土器である。14～17・26は第2・3層から出土した。14は青花の皿である。15は須恵器壺身、16は須恵器脚台、17は陶器壺、26はチャートの剥片である。同層からは、この他に土師器、瓦が出土している。18～20は第4・5層から出土した。いずれも須恵器で提瓶、甕、壺である。この層からは土師器、製塩土器、瓦も出土している。21～25は第6層からの出土である。21は須恵器の壺身、22・23は土師器の壺、24は土師質管状土錘、25はサヌカイトの剥片である。

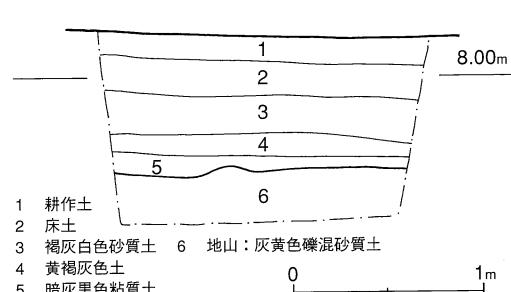
(3) 96-6区

a. 調査の概要（第36・44・45図）

調査区は、本遺跡の北部に位置する。調査は、調査区内の南部に2.5m×1.7mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第1層耕作土、第2層床土、第3層褐灰白色砂質土、第4層黄褐色土、第5層暗灰黑色粘質土、第6層灰黄色礫混砂質土（地山）である。遺構は検出されず、遺物は第3層から須恵器、土師質土器、第4層から土師質土器、第5層から須恵器、土師質土器、土師質蛸壺が出土した。



第44図 貝掛遺跡96-6区 トレンチ位置図



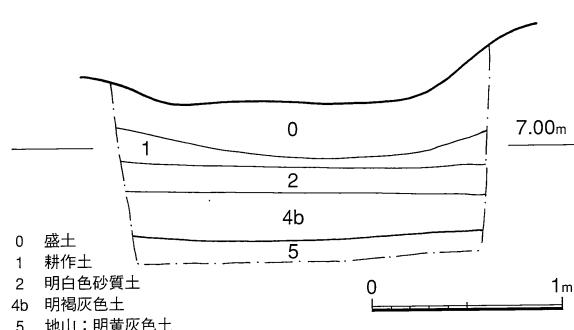
第45図 貝掛遺跡96-6区
トレンチ東側断面図

(4) 97-1区

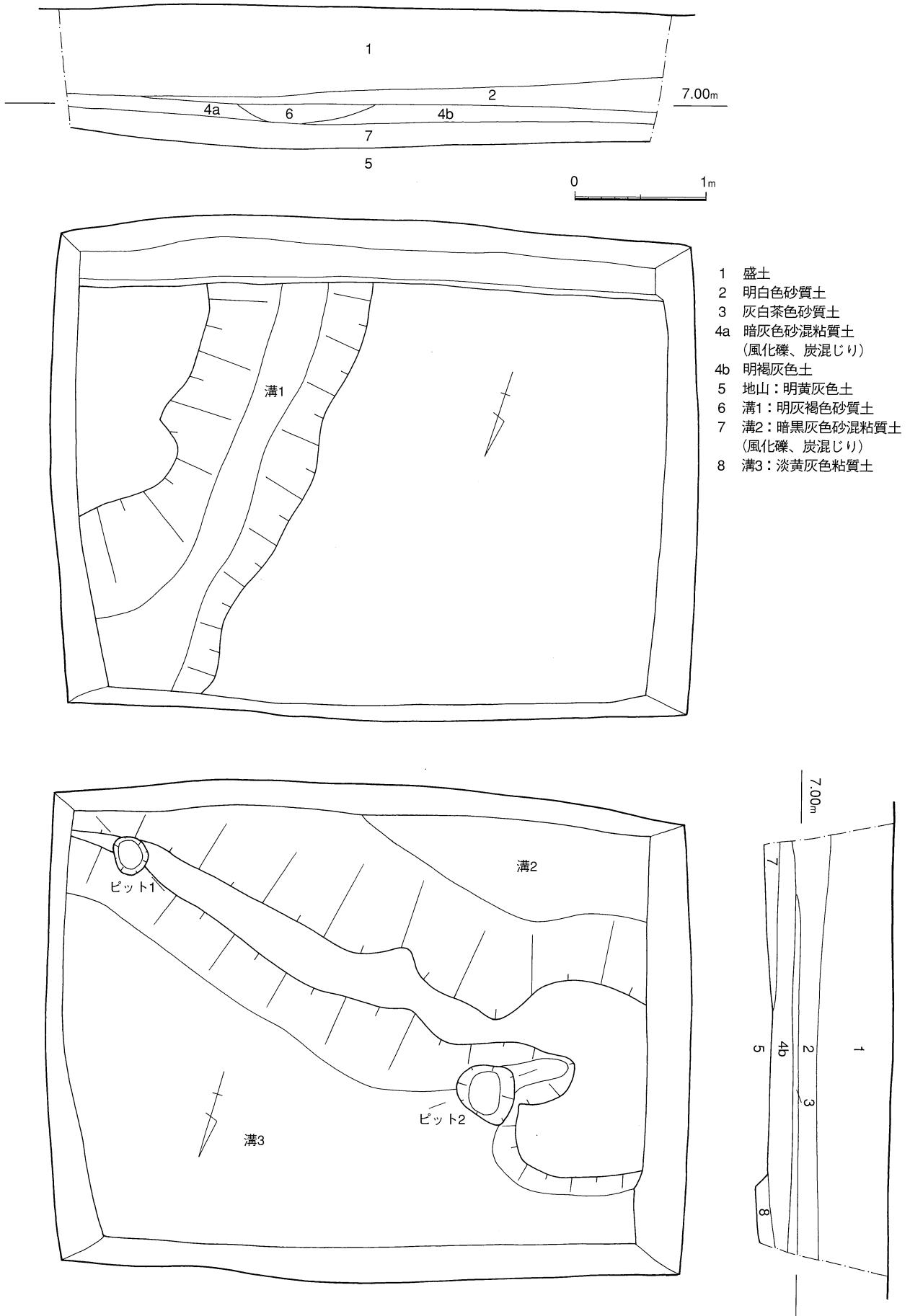
a. 調査の概要（第36・37・46・47図）

調査区は貝掛遺跡の北部に位置し、96-5区に隣接する。調査は調査区内に4.5m×3.5mの1トレンチ、2m×1.9mの2トレンチを設定し行った。

盛土、耕作土を除く基本層序は、第2層明白色砂質土、第3層灰白茶色砂質土、第4a層暗灰色砂混粘質土、第4b層明褐色土、第5層明黃灰色土（地山）である。遺構は1トレンチの第4層上面で溝1、地山面で溝2、ピット2を検出した。2トレンチから遺構は検出されなかった。



第46図 貝掛遺跡97-1区 2トレンチ西側断面図



第47図 貝掛遺跡97-1区 1トレンチ平面図・断面図

b. 遺構（第47図）

－溝1－

第4層上面で検出し、幅1.8m以上、深さ30cm以上を呈する。近世期の溝で、埋土は明灰褐色砂質土である。遺物はサヌカイト、土師器、須恵器、製塩土器、黒色土器（A類）、瓦器、磁器が出土した。

－溝2－

地山面で検出し、幅2.5m以上、深さ20cm以上を呈する。埋土は暗黒灰色砂混粘質土である。遺物はサヌカイト、土師器、須恵器、製塩土器、土師質管状土錐が出土した。奈良時代のものと思われる。

－溝3－

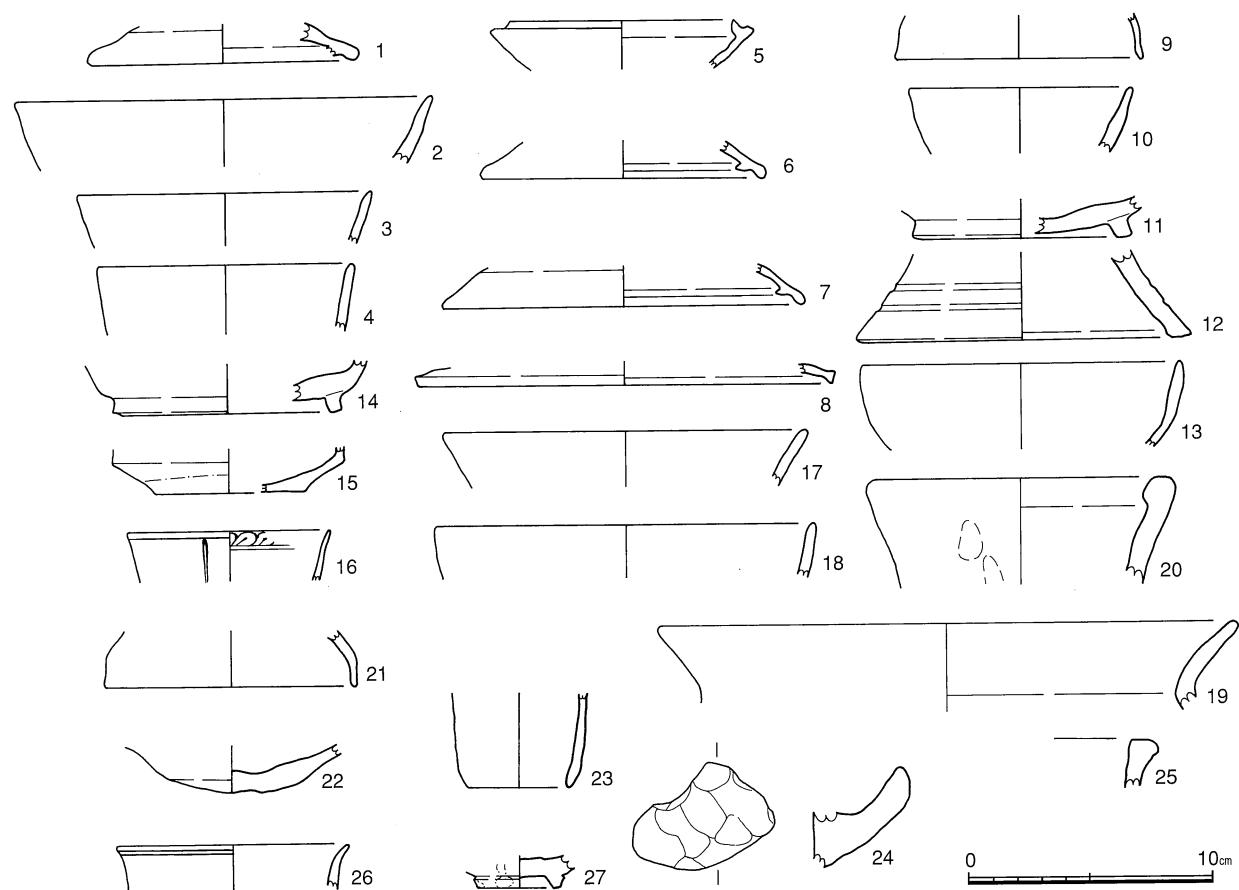
地山面で検出した。幅1.2m以上、深さ20cm以上を呈する。埋土は淡黄灰色粘質土で、遺物はサヌカイト、土師器、須恵器、製塩土器が出土した。奈良時代の溝である。

－ピット－

ピット1は直径25cm、深さ80cmで、埋土は溝2と同じである。ピット2は直径45cm、深さ15cmで、埋土は暗黒灰色砂混粘土である。どちらからも遺物は出土しなかった。

c. 遺物（第48図）

以下の1～13は、上述した遺構からの出土である。1～4は溝1から出土した。1～3は須恵器の蓋環、4は磁器碗である。5～8は溝2から出土した。いずれも須恵器の蓋環である。



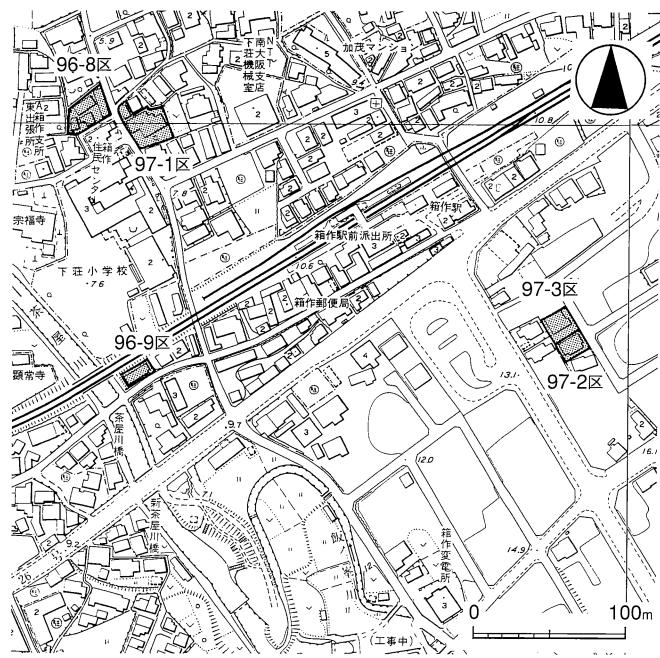
第48図 貝掛遺跡97-1区 出土遺物

9～13は溝3からの出土である。9～12は須恵器で、9～11は蓋坏、12は脚台。13は塊型の製塩土器である。

14～27は包含層からの出土である。第4層からは土師器、須恵器、瓦器、陶器、磁器、土師質管状土錐が出土し、このうち14～16の3点のみを図化した。14は須恵器坏身、15は陶器塊・16は磁器碗である。第5層からは土師器、須恵器、製塩土器が出土している。奈良時代の層と思われる。以下の17～20を図化した。17・18は須恵器の坏身、19は土師器の甕、20は製塩土器である。この他、第2層からは土師器、瓦器、陶器が、第3層から土師器、須恵器、製塩土器、瓦器、青磁等が出土しているが、小片のため図化し得なかった。また、21から27はサブトレンチ等からの出土である。21～23は須恵器で、21・22は蓋坏、23は飯蛸壺である。24は土師器の把手、25は製塩土器、26・27は磁器碗である。

第9節 箱作今池遺跡

市域の北西部に位置する。茶屋川とその支流飯ノ峯川が形成した谷の出口に拡がる。区画整理事業が遺跡の中心部分で進められており、その事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査が1990年より行われている。この調査では奈良時代の建物跡やそれに伴う遺物をはじめ、中世期の遺構が確認されている。また、海岸に近い場所での調査では、蛸壺をはじめとする漁具が出土しており、漁撈集落の存在が想定されている。

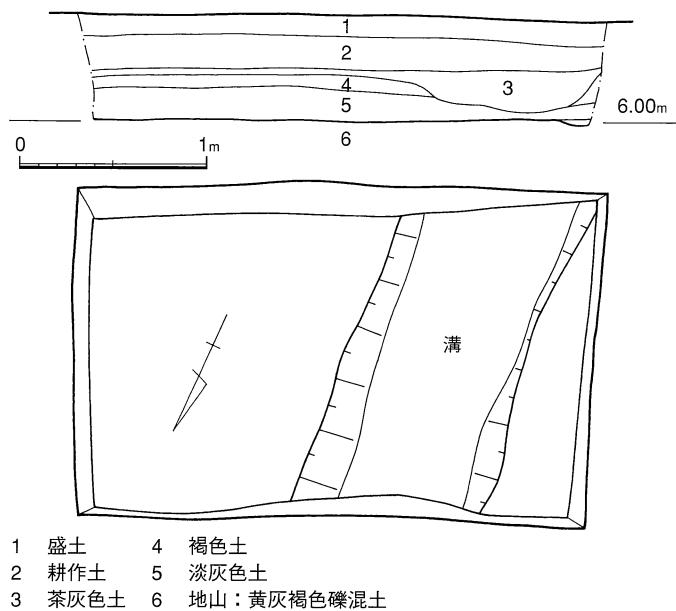


第49図 箱作今池遺跡 調査区位置図

(1) 96-8区

1. 調査の概要（第49・50・51図）

本調査区は箱作今池遺跡の北部に位置する。調査は3m×1.8mのトレンチを設定して行った。盛土、耕作土以下の基本層序は、第3層茶灰色土、第4層褐色土、第5層淡灰色土、第6層黄灰褐色礫混土（地山）である。第4層上面で溝が確認された。遺物は須恵器、製塩土器、土師質土器、瓦器、瓦質土器等が出土したが、小片のため図化し得なかった。



第50図 箱作今池遺跡96-8区 トレンチ平面図・南側断面図

2. 遺構（第50図）

—溝1—

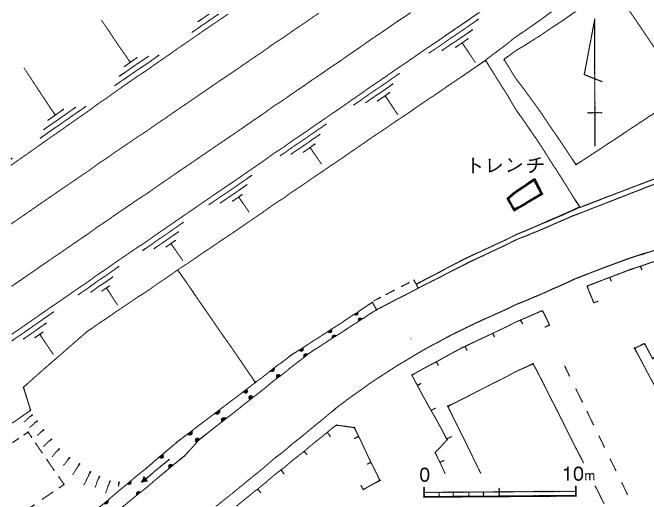
第4層上面で検出された。南北方向に延び、幅約90cm、深さ約15cmを呈する。埋土は第3層茶灰色土である。埋土中から須恵器、瓦器、土師質蛸壺等が出土した。中世期のものと考えられる。



(2) 96-9区

a. 調査の概要（第49・52図）

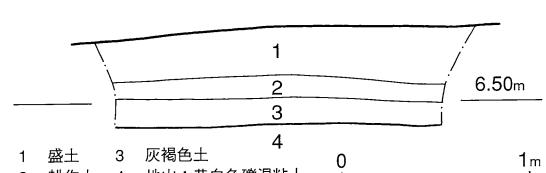
調査区は、本遺跡の西端部、茶屋川の右岸に位置する。調査は、調査区内の東部に2m×1mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第1層盛土、第2層淡黄灰色粘土（地山）であった。遺構、遺物ともに検出されなかった。



(3) 97-1区

1. 調査の概要（第49・51・53図）

本調査区は箱作今池遺跡の北部に位置する。調査は2m×1mのトレンチを設定して行った。盛土、耕作土以下の基本



第53図 箱作今池遺跡97-1区
トレンチ北側断面図

層序は、第3層灰褐色土、第4層黄白色礫混粘土（地山）である。遺構は検出されず、遺物も第3層から土師質土器の小片が2点出土したのみである。

(4) 97-2区

a. 調査の概要（第49・54・56図）

調査区は、本遺跡の中央部に位置する。周辺の調査より奈良時代の掘立柱建物跡等が確認された調査区に隣接している。調査区内の西部に4.2m×4mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第1層盛土、第2層床土、第3層暗茶黃灰色土、第4層黃茶灰色土、第5層明黃茶灰色土、第6層黃灰色土（地山）である。遺構は地山面でピット1を検出し、遺物は第2層から須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、鉄釘、サヌカイト、土師質蛸壺、土師質土錘、白土器、第3・4層から須恵器、製塩土器、土師質土器、土師質土錘、瓦器、第5層から須恵器、製塩土器、土師質土器が出土した。

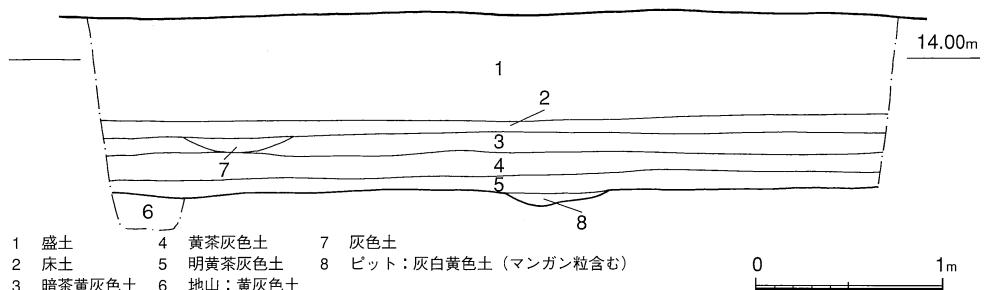
b. 遺構

—ピット1—

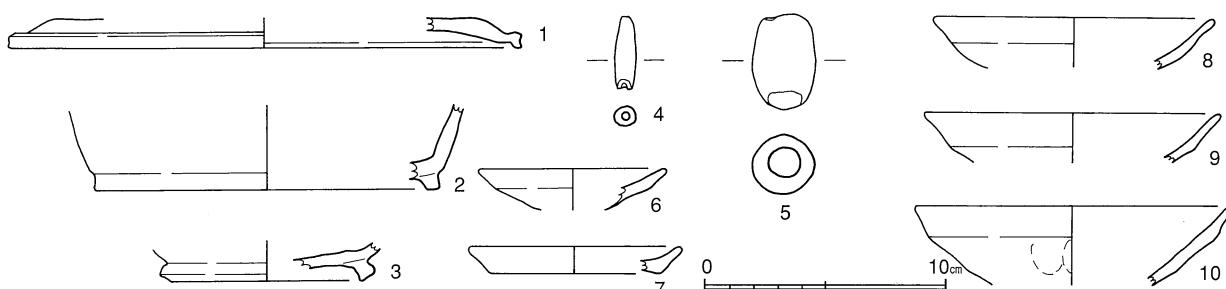
トレンチの東部に位置し、径55cm以上、深さ12cm以上で、埋土は灰白黄色土である。

c. 遺物（第55図）

1～3は須恵器で、1は壺蓋の口縁部、2・3は壺身の底部である。第3・4層から出土した。4・5は土師質管状土錘で、4は第3・4層、5は第2層から出土した。6・7は土師質土器小皿の口縁部、6は第2層から、7は調査区内から出土した。8～10は瓦器塊の口縁部である。8・10は第2層から、9は第3・4層から出土した。



第54図 箱作今池遺跡97-2区 トレンチ東側断面図



第55図 箱作今池遺跡97-2区 出土遺物

(5) 97-3区

a. 調査の概要（第49・56・57図）

調査区は、97-2区の北部に隣接する。調査は調査区内に14m×10mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4a層褐灰黄色土、第4b層濃褐灰黄色土、第5層灰紫白色土、第6層黄灰色土（地山）である。遺構は第2層上面で溝2、第5層上面で建物3、土坑2、溝2、落ち込み1と多数のピットを検出した。遺物は第4a・b層から土師器、須恵器、製塩土器、瓦器、土師質蛸壺、土師質管状土錘等が、第5層から土師器、須恵器、製塩土器等が出土した。これらのことから第4a・b層は中世期、第5層は奈良時代のものと思われる。

b. 遺構（第57図）

—建物1—

トレンチの北西部に位置する。柱穴の堀形は1辺約44～85cm、深さは50～60cmで、間隔は1.7mを測る。南北4間、東西2間の掘立柱建物であるが、北側の1間についてはその形状などから庇の可能性が考えられる。埋土から奈良時代の土師器、製塩土器を出土した。

—建物2—

トレンチの北西部に位置する。堀形は1辺約60～88cm、深さは30～60cm程度で、柱穴間隔は南北2.3mを測り、一部柱材が残存していた。建物1と軸を同じにする、南北2間以上の掘立柱建物である。往年の調査より西側に拡がると考えられる。奈良時代の建物と思われる。

—建物3—

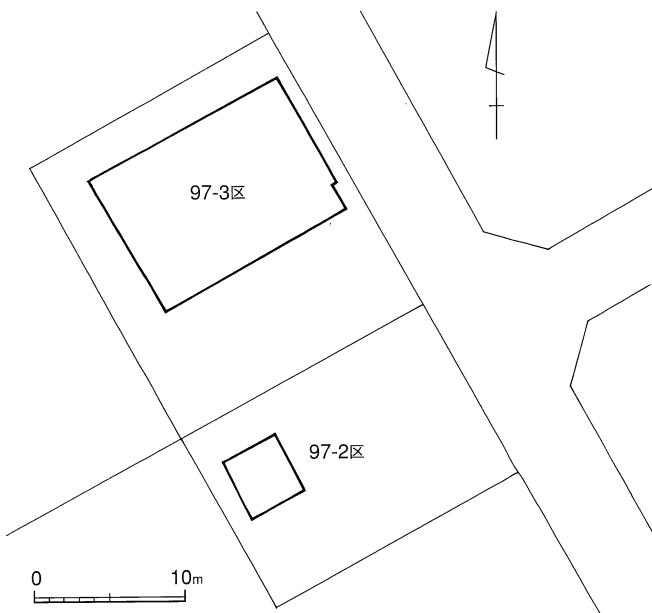
調査区の東南部に位置する、南北2間、東西2間以上の掘立柱建物である。建物1・2と軸を同じにするが、柱穴は直径約30cm、深さ20cm程度の小型で丸い平面形を持つ。柱穴より製塩土器が出土した。

—土坑1—

幅南北2.8m、東西80cm、深さ7cmで、埋土は暗黄灰色土であった。須恵器の飯蛸壺を出土した。

—土坑2—

トレンチ中央部に位置し、東西3m、南北2.5m、深さ25cm、埋土は濃灰色土、灰黃白色土、黃灰色土で、土師器、製塩土器を出土した。建物1より若干先行する奈良時代のものと思われる。



第56図 箱作今池遺跡97-2区・97-3区
トレンチ位置図



第57図 箱作今池遺跡97-3区 トレンチ平面図・断面図

—溝1—

トレンチ南西部に位置し、長さ1.8m以上、幅45cm、深さ25cmで、埋土は暗灰茶色土で、須恵器、蛸壺、瓦が出土した。

—溝2—

トレンチ南西部に位置し、長さ1m以上、幅46cm、深さ5cmで、埋土は暗灰茶色土である。溝1と同様に近世期のものと思われる。

—溝3—

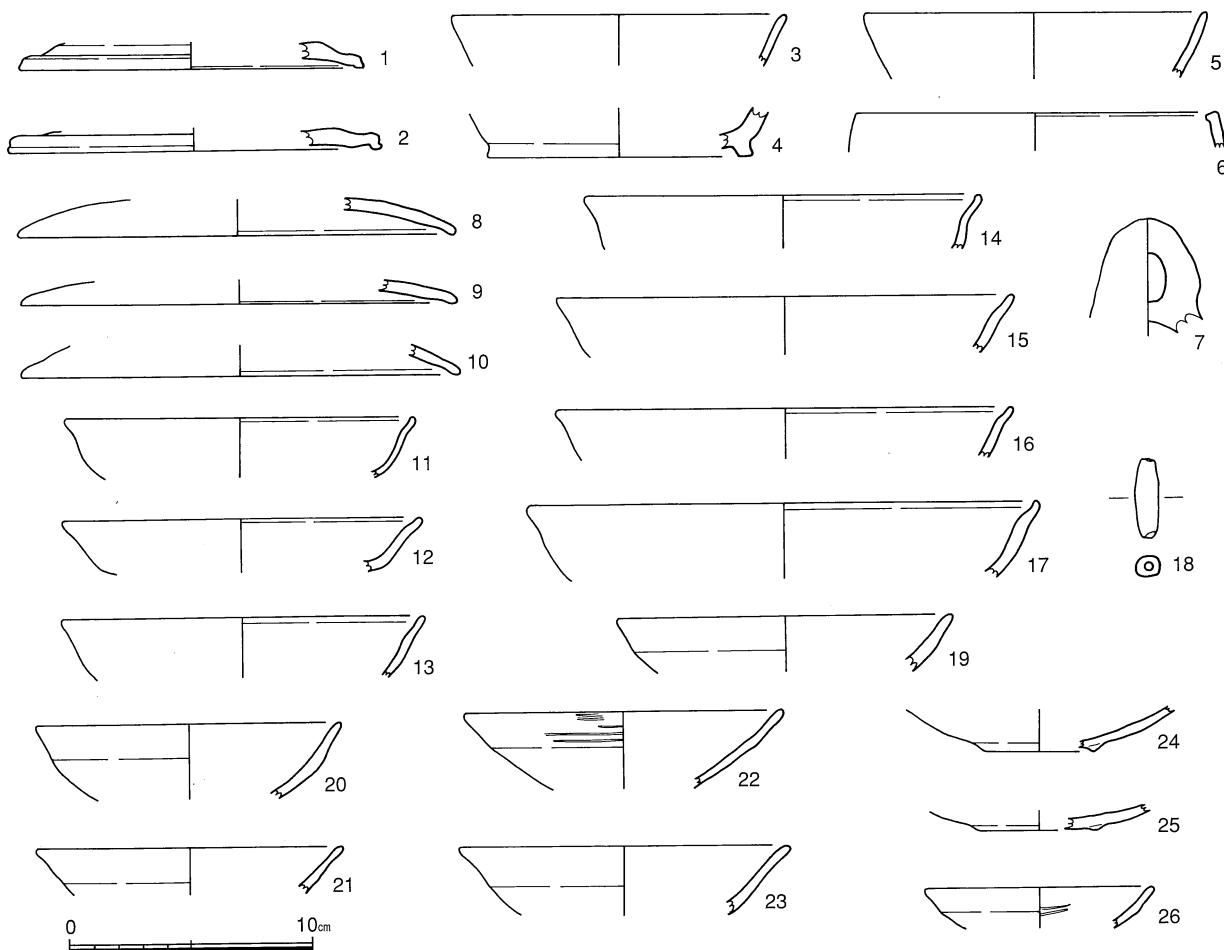
トレンチ北東部に位置し、2.7m以上、幅40cm、深さ約5cmで、埋土は暗灰紫色土である。遺物は出土しなかった。

—溝4—

溝3と方向、規模、埋土等はほぼ同じである。遺物は出土しなかった。

—落ち込み1—

トレンチの西部に位置する。幅60cm以上、深さ10cm以上を呈する。埋土は淡黄灰色土である。遺物は出土しなかった。



第58図 箱作今池遺跡97-3区 出土遺物

—ピット群—

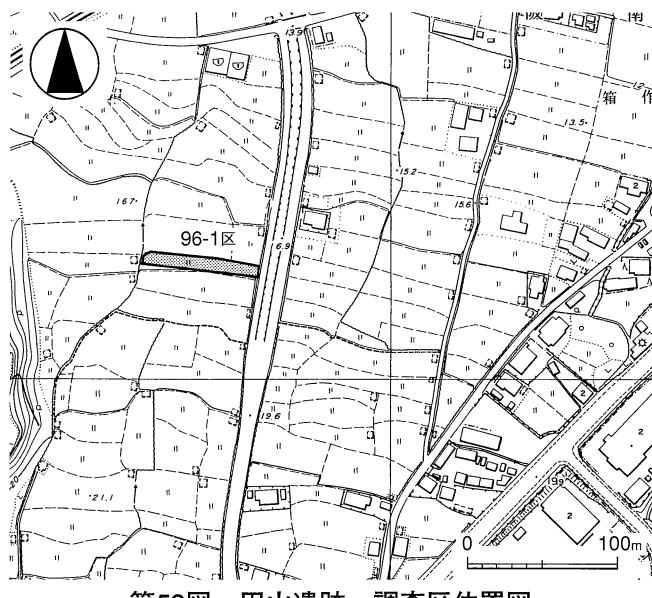
第5層上面で約80のピットを確認した。やや大型の方形のものと、小型の円形のものがある。方形のものは調査区外に拡がる建物の柱穴と思われる。

c. 遺物（第58図）

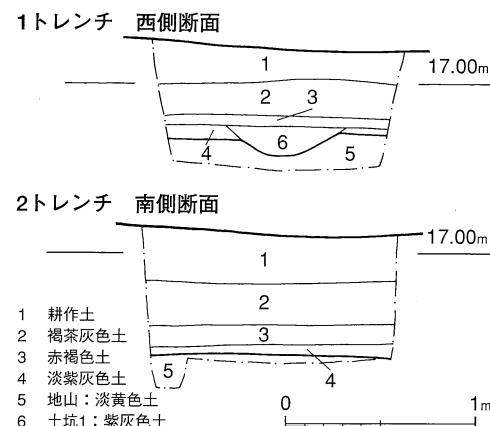
遺物のうち図化し得たのは以下のとおりである。1～7は須恵器で、1・2は壺蓋、3～5は壺身、6は鉢、7は飯蛸壺である。8～17は土師器で、8～10は蓋、11～17は壺である。18は土師質管状土錘、19は白土器の皿である。20～25は瓦器塊、26は瓦器皿である。8～11および16・17は土坑2、19・21・23は調査区から、その他は第3層から出土した。

第10節 田山遺跡

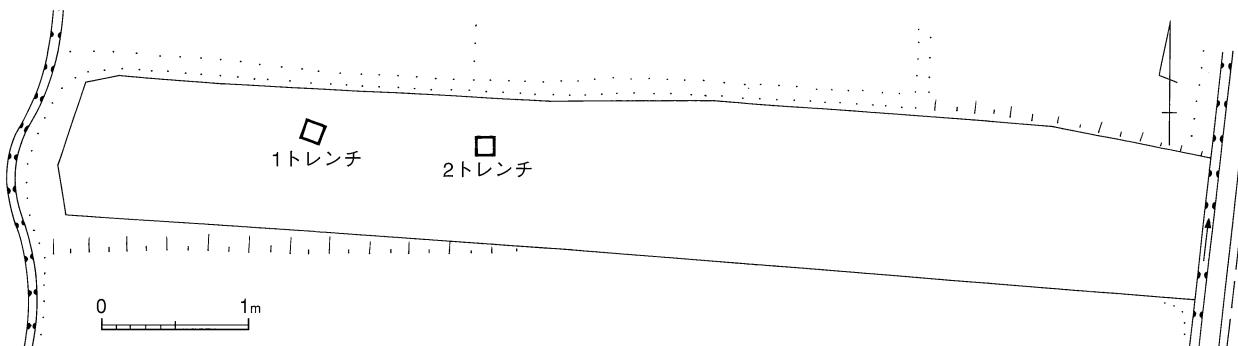
市域の遺跡のうちでも西よりに位置する。これまでの調査では、縄文時代～中世期の遺構や遺物が確認されている。市域の海岸部に拡がる他の遺跡と同様、蛸壺をはじめとする漁具が出土しており、漁撈集落が存在していたと考えられている。また、特筆すべきこととして、土師質の蛸壺や土錘を焼成した遺構が検出されていることがあげられる。



第59図 田山遺跡 調査区位置図



第61図 田山遺跡96-1区
1トレンチ・2トレンチ断面図



第60図 田山遺跡96-1区 トレンチ位置図

(1) 96-1区

a. 調査の概要（第59・60・61図）

本調査区は田山遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、 $1.5m \times 1.2m$ および $1.2m \times 1.2m$ の 2 カ所のトレンチを設定して行った。耕作土以下の基本層序は、第 2 層褐茶灰色土、第 3 層赤褐色土、第 4 層淡紫灰色土、第 5 層淡黄色土（地山）である。1 トレンチとした西側のトレンチでは、層の堆積状況を確認するためのサブトレンチを設定した西断面で土坑を確認した。東側の 2 トレンチからは遺構は確認しなかった。各トレンチの第 2 ~ 4 層から須恵器、土師質土器等が出土した。

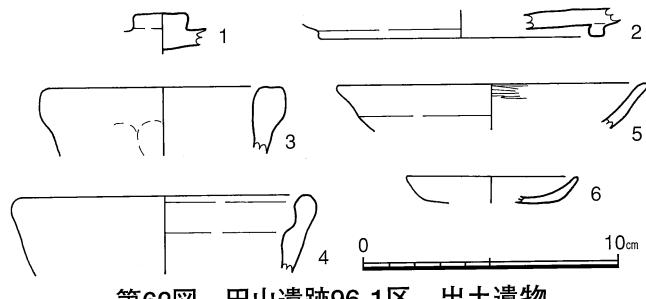
b. 遺構（第61図）

—土坑 1—

上述のように、1 トレンチの西側断面で土坑と思われる遺構を確認した。第 4 層上面から掘削されていた。断面での幅約 65cm、深さ約 15cm を計る。埋土は紫灰色土で、土師質土器の小片が出土した。

c. 遺物（第62図）

図化した遺物は 6 点。1 は須恵器坏蓋のつまみ。2 は同じく坏身の高台部。3・4 は製塩土器の口縁部。いずれも奈良時代のものと思われる。5 は瓦器塊の口縁部。6 は土師質土器の小皿。1・4 は第 2 層から、2・5・6 は第 1 層から、3 は第 3 層から出土した。



第62図 田山遺跡96-1区 出土遺物

第2章　まとめ

以上、調査の概要である。昨年に引き続き小規模な調査区が多いなかで、今年度は貝掛遺跡96-5区と箱作今池遺跡97-3区で比較的大きい調査を実施し、ある程度の成果があった。

まず、貝掛遺跡の成果について若干述べる。今回の調査区（96-4区、96-5区、97-1区）は現在の海岸部より200m程内陸部に位置し、奈良時代の土坑より多くの製塩土器が出土した。この土坑については、残念ながら先に触れたとおり、全体の掘削を行わなかったため、その性格は明確になっていない。しかし一方、今回の調査区に隣接する東側段丘上では、以前大規模に調査が行われている。この調査区（89-3区）からは、古墳時代から奈良時代の建物跡等が検出され、須恵器、土師器とともに、奈良三彩八曲長壺や金環といった特殊遺物、製塩土器が出土し、この段丘に何らかの公的施設があったと考えられている。今回の調査地区からも、同時代の遺構、遺物が出土したことから、一段下の段丘上にも同じ時代の生活面が拡がっていたことがうかがえた。さらに、土坑から多くの製塩土器が出土したことにより、89-3区の調査でその存在が想定されていた公的施設は、何らかの形で塩生産に関する施設ではないかと想定されるに至った。

次に、箱作今池遺跡について触れる。この遺跡内では、先年より区画整理事業に伴って、大規模な発掘調査が（財）大阪府埋蔵文化財調査研究センターおよび当教育委員会によって行われている。これらの調査では、弥生時代～近世期の遺構、遺物が確認されている。今回の調査区（97-3区）は、同センターの調査で、奈良時代の大型建物群が検出された地域に隣接している。この調査区では、本文中で述べたように、比較的大きな柱穴を有する2棟の建物や土坑等が確認された。確認された柱穴の大きさから、かなりの規模の建物であったと想定される。単なる庶民の住居等ではなく、貝掛遺跡と同様に公的施設の可能性が多分に考えられる。これらの詳細については、周辺地域のさらなる調査や同センターの報告を待ちたい。

報告書抄録

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはつくつちょうさかいよう							
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XIII							
副書名								
卷次								
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告							
シリーズ番号	XXIII							
編著者名	三好義三・田中早苗・上野仁							
編集機関	阪南市教育委員会社会教育課							
所在地	599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 0724-71-5678							
発行年月日	西暦 1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ 一 ド 市 町 村	北 緯 。' "	東 経 。' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
おざきかいがん 尾崎海岸	はんなんしおざきちょう 阪南市尾崎町	2 7 2 3 2	65	34° 21' 40"	135° 14' 28"	9 7 0 6 2 7	2	住 宅
同 上	同 上	2 7 2 3 2	65	34° 21' 36"	135° 14' 27"	9 7 0 7 2 3	2	住 宅
うまがわ 馬川	阪南市下出	2 7 2 3 2	39	34° 21' 25"	135° 15' 02"	9 7 0 9 2 9	10	住 宅
同 上	同 上	2 7 2 3 2	39	34° 21' 23"	135° 15' 10"	9 7 1 0 2 7	3	住 宅
じんこうじはすいけ 神光寺蓮池	いしだ 阪南市石田	2 7 2 3 2	20	34° 20' 45"	135° 14' 27"	970804·06	5	住 宅
むかいで 向 出	じねんだ 阪南市自然田	2 7 2 3 2	43	34° 20' 48"	135° 15' 29"	9 7 0 5 2 1	5.1	住 宅
じねんた 自然田	同 上	2 7 2 3 2	35	34° 20' 18"	135° 15' 23"	9 7 0 4 1 1	6.4	住 宅
とつとりきた 鳥取北	とつとり 阪南市鳥取	2 7 2 3 2	54	34° 21' 05"	135° 14' 14"	9 7 0 4 1 0	3.9	住 宅
同 上	同 上	2 7 2 3 2	54	34° 21' 05"	135° 14' 12"	9 7 0 6 0 4	2.4	住 宅
同 上	同 上	2 7 2 3 2	54	34° 21' 13"	135° 14' 13"	971120·21	6	住 宅
にしどり 西鳥取	同 上	2 7 2 3 2	56	34° 20' 53"	135° 14' 02"	9 7 0 4 1 0	4.5	住 宅
同 上	同 上	2 7 2 3 2	56	34° 20' 48"	135° 13' 57"	9 7 0 7 0 7	2	住 宅
かいかけ 貝掛	かいかけ 阪南市貝掛	2 7 2 3 2	19	34° 20' 32"	135° 13' 37"	970116·17	4	事務附住宅
同 上	同 上	2 7 2 3 2	19	34° 20' 33"	135° 13' 37"	970210~14	72	事務附住宅
同 上	同 上	2 7 2 3 2	19	34° 20' 31"	135° 13' 36"	9 7 0 2 1 7	4.3	住 宅
同 上	同 上	2 7 2 3 2	19	34° 20' 33"	135° 13' 37"	970415·16	20	住 宅
はこつくりいまいけ 箱作今池	はこつくり 阪南市箱作	2 7 2 3 2	24	34° 20' 19"	135° 12' 48"	9 7 0 2 1 9	5.4	住 宅
同 上	同 上	2 7 2 3 2	24	34° 20' 14"	135° 12' 52"	9 7 0 3 1 3	2	住 宅
同 上	同 上	2 7 2 3 2	24	34° 20' 19"	135° 12' 49"	9 7 0 5 1 6	2	住 宅
同 上	同 上	2 7 2 3 2	24	34° 20' 15"	135° 12' 59"	9 7 0 5 1 5	16.8	住 宅
同 上	同 上	2 7 2 3 2	24	34° 20' 16"	135° 12' 59"	970515~0627	140	住 宅
たやま山	同 上	2 7 2 3 2	22	34° 20' 05"	135° 12' 19"	9 7 1 2 2 5	3.2	住 宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾崎海岸	散布地	不 明		土師質土器・陶器・瓦・蛸壺・土錘	
同 上	同 上	不 明		土師質土器・磁器・瓦・土錘	
馬川	同 上	不 明		弥生式土器・土師器・須恵器	
同 上	同 上	不 明		土師質土器・陶器・瓦	
神光寺蓮池	同 上	不 明	溝	須恵器・土師質土器・瓦器・白土器	
向出	同 上	不 明		サヌカイト・須恵器・土師質土器・瓦器・陶器・蛸壺	
自然田	同 上	不 明		弥生式土器・須恵器・土師器・陶器	
鳥取北	同 上	不 明			
同 上	同 上	不 明		土師質土器・瓦	
同 上	同 上	不 明		土師質土器・須恵質土器・瓦器・瓦	
西鳥取	同 上	不 明		土師質土器・瓦・磁器	
同 上	同 上	不 明		須恵器・陶器	
貝掛	同 上	不 明	溝	須恵器・土師器・瓦器	
同 上	同 上	不 明	ピット・土坑・落ち込み	須恵器・土師器・製塙土器	
同 上	同 上	不 明		須恵器・土師質土器・蛸壺	
同 上	同 上	不 明	溝・ピット	サヌカイト・須恵器・土師器・土錘・製塙土器・黒色土器・瓦器・磁器	
箱作今池	同 上	不 明	溝	須恵器・土師質土器・瓦器・瓦質土器・製塙土器・蛸壺	
同 上	同 上	不 明			
同 上	同 上	不 明		土師質土器	
同 上	同 上	不 明	ピット	サヌカイト・須恵器・瓦器・土師質土器・瓦質土器・土錘・製塙土器	
同 上	同 上	不 明	溝・建物・土坑・落ち込み・ピット	土師器・須恵器・製塙土器・瓦器・蛸壺・管状土錘	
田山	同 上	不 明	土坑	須恵器・土師質土器	

写 真 図 版



尾崎海岸遺跡97-1区 トレンチ全景（西より）



尾崎海岸遺跡97-2区 トレンチ全景（南より）



馬川遺跡97-1区 トレンチ全景（北より）



馬川遺跡97-2区 トレンチ全景（南より）



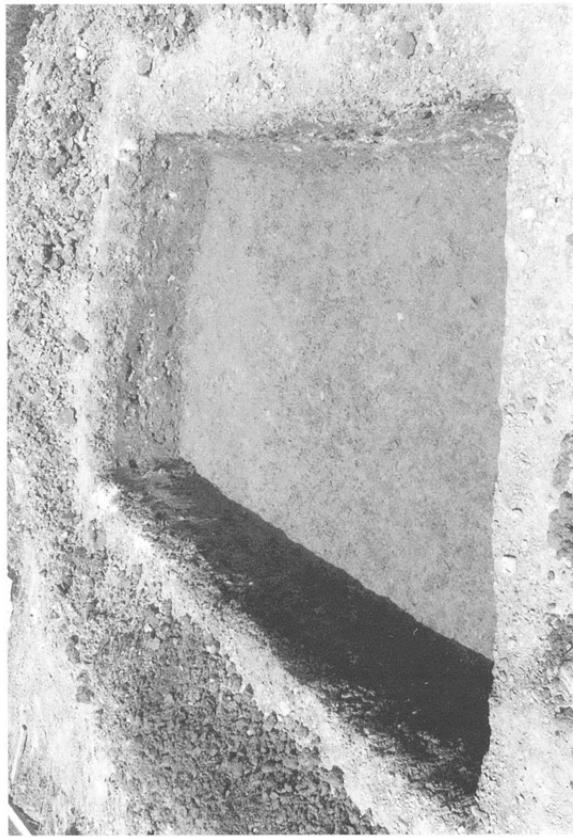
神光寺（蓮池）遺跡97-1区 トレンチ全景（南より）



神光寺（蓮池）遺跡97-1区 トレンチ東側断面



向出遺跡97-1区 トレンチ全景（東より）



自然田遺跡97-1区 トレンチ全景（南より）



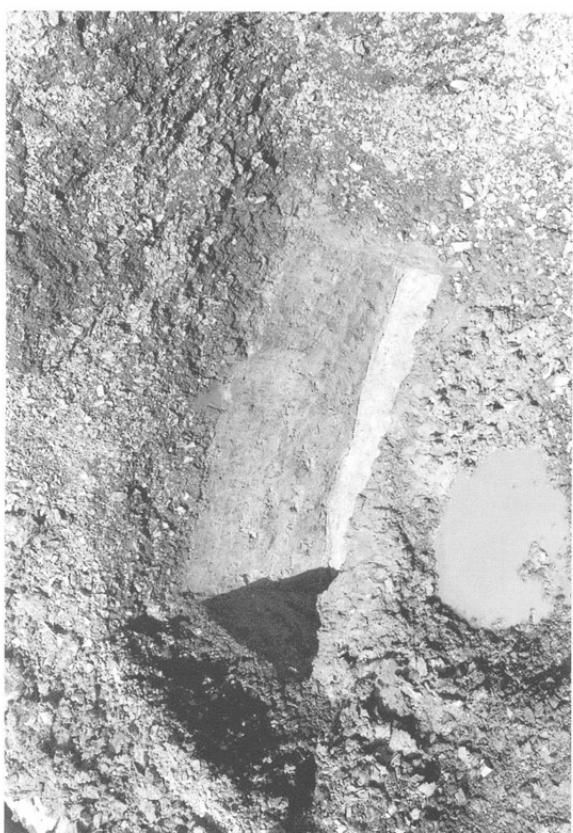
鳥取北遺跡97-1区 トレンチ全景（西より）



鳥取北遺跡97-2区 トレンチ全景（東より）



鳥取北遺跡97-3区 トレンチ全景（南より）



西鳥取遺跡97-1区 トレンチ全景（西より）



西鳥取遺跡97-2区 トレンチ全景（北より）



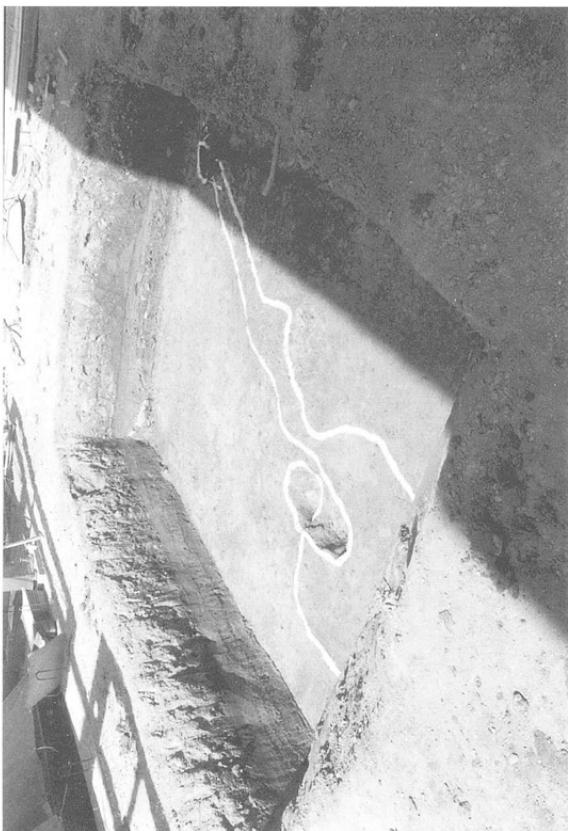
貝掛遺跡96-6区 トレンチ全景（西より）



貝掛遺跡96-4区 1トレンチ全景（北より）



貝掛遺跡96-4区 1トレンチ北側断面



貝掛遺跡97-1区 1トレンチ全景（南より）



貝掛遺跡97-1区 1トレンチ4層上面（北より）



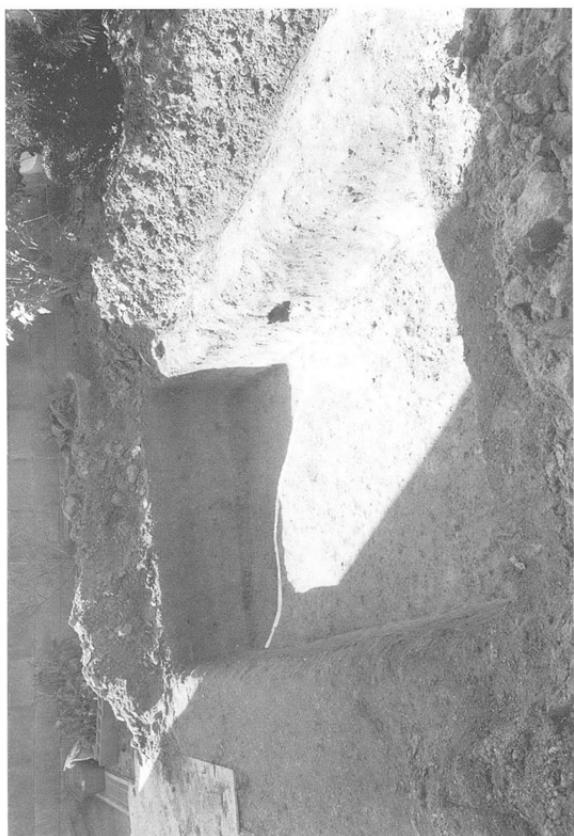
貝掛遺跡97-1区 2トレンチ全景（北より）



貝掛遺跡97-1区 ピット2



箱作今池遺跡96-8区 トレンチ全景上層（西より）



箱作今池遺跡96-8区 トレンチ全景下層（東より）



箱作今池遺跡96-9区 トレンチ全景（東より）



箱作今池遺跡97-1区 トレンチ全景（西より）



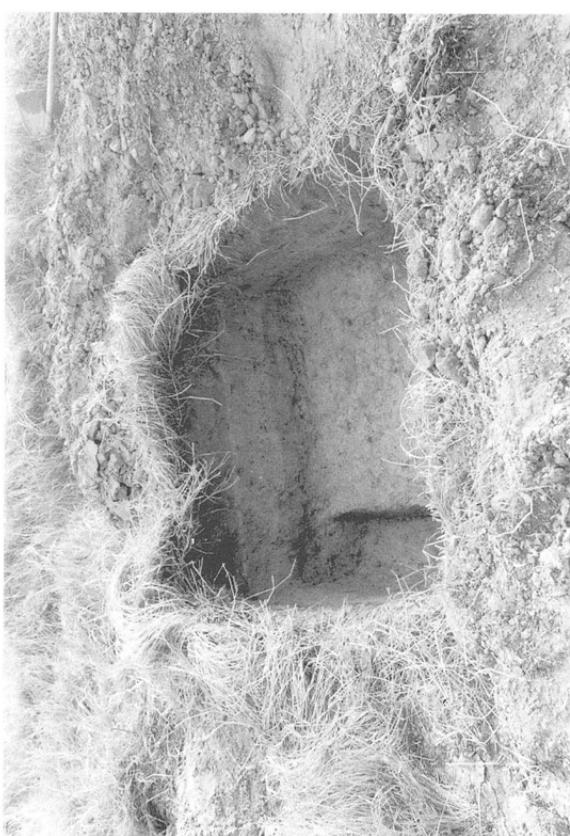
箱作今池遺跡97-2区 トレンチ全景（南より）



箱作今池遺跡97-2区 東側断面 ピット1



田山遺跡96-1区 1トレンチ全景（北より）



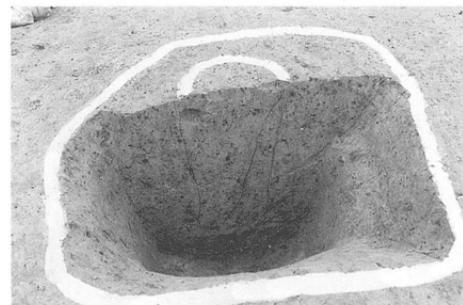
田山遺跡96-1区 2トレンチ全景（北より）



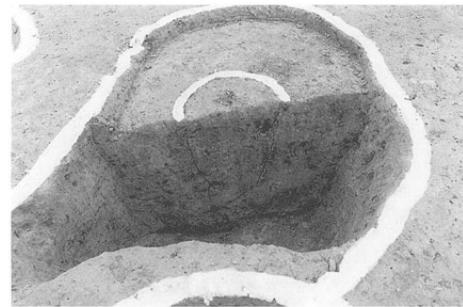
箱作今池遺跡97-3区 調査区全景（南より）



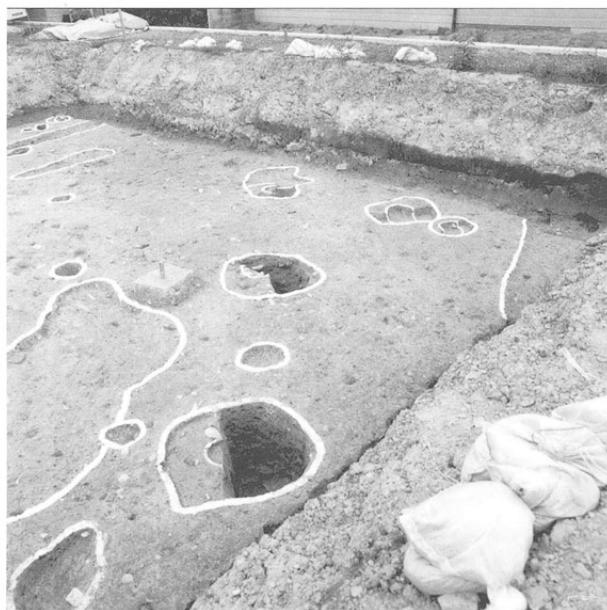
箱作今池遺跡97-3区 建物1（南より）



箱作今池遺跡97-3区 建物1柱穴断面（東より）



箱作今池遺跡97-3区 建物1柱穴断面（東より）



箱作今池遺跡97-3区 建物2全景（北より）



箱作今池遺跡97-3区 建物2柱穴断面（西より）



箱作今池遺跡97-3区 建物2柱穴断面（西より）



箱作今池遺跡97-3区 建物3全景（北より）



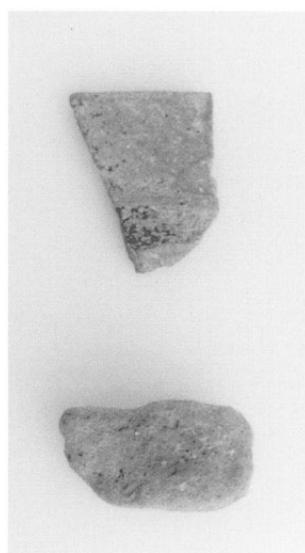
箱作今池遺跡97-3区 土坑2（北より）



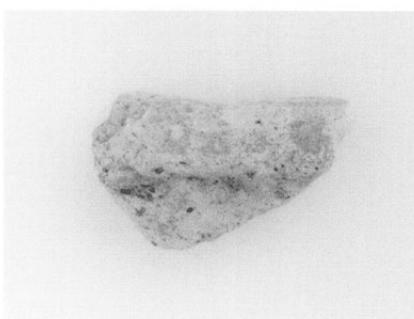
尾崎海岸遺跡97-1区 出土遺物



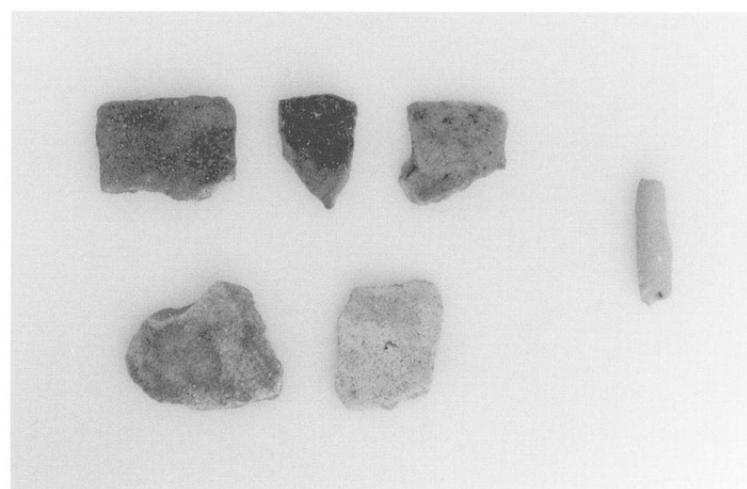
尾崎海岸遺跡97-1区 出土遺物



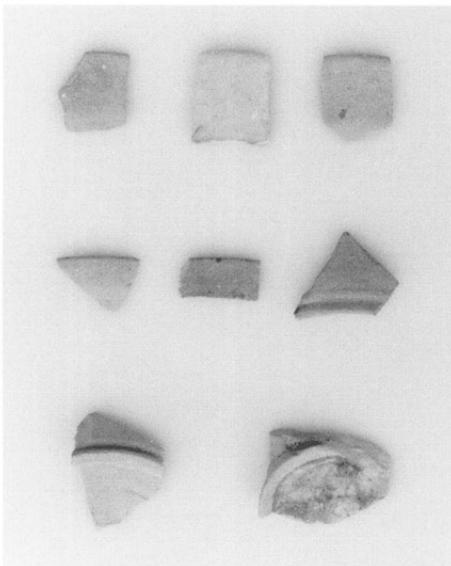
自然田遺跡97-1区 出土遺物



向出遺跡97-1区 出土遺物



貝掛遺跡96-5区 出土遺物



貝掛遺跡96-4区 出土遺物



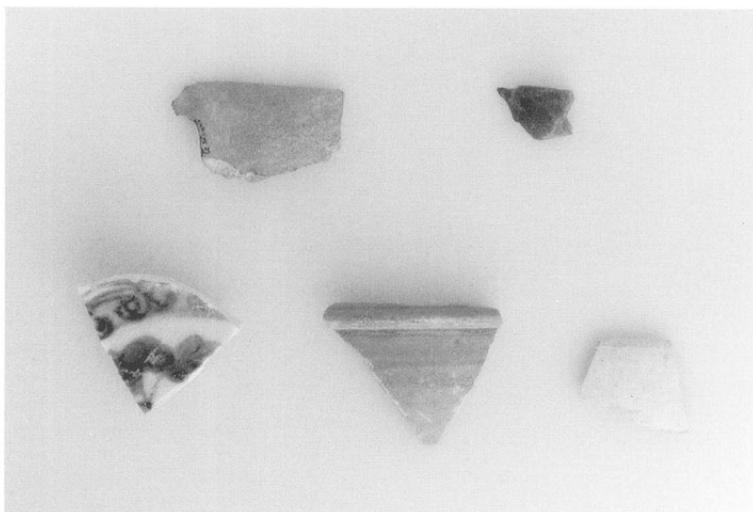
貝掛遺跡96-5区 出土遺物



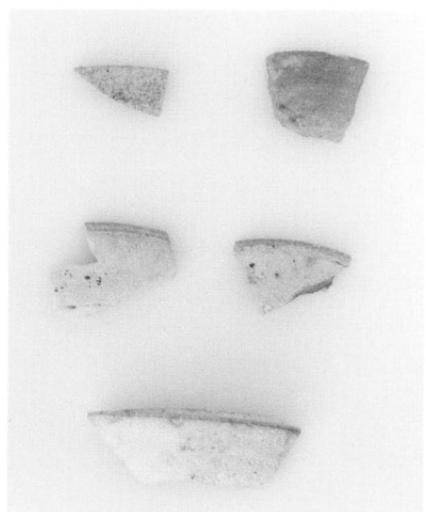
貝掛遺跡96-5区 出土遺物



貝掛遺跡96-5区 出土遺物



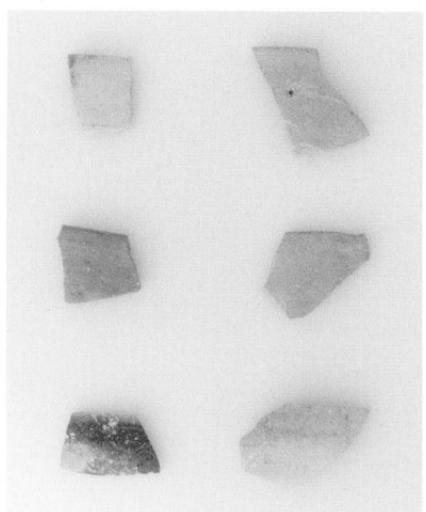
貝掛遺跡96-5区 出土遺物



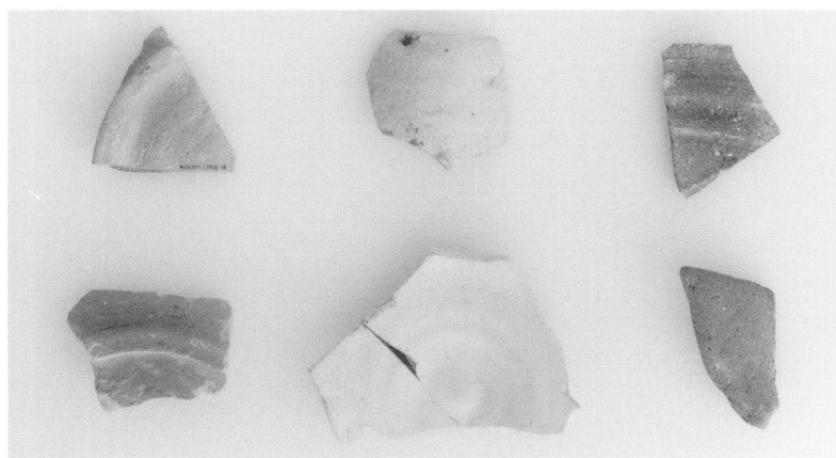
貝掛遺跡97-1区 出土遺物



貝掛遺跡97-1区 出土遺物



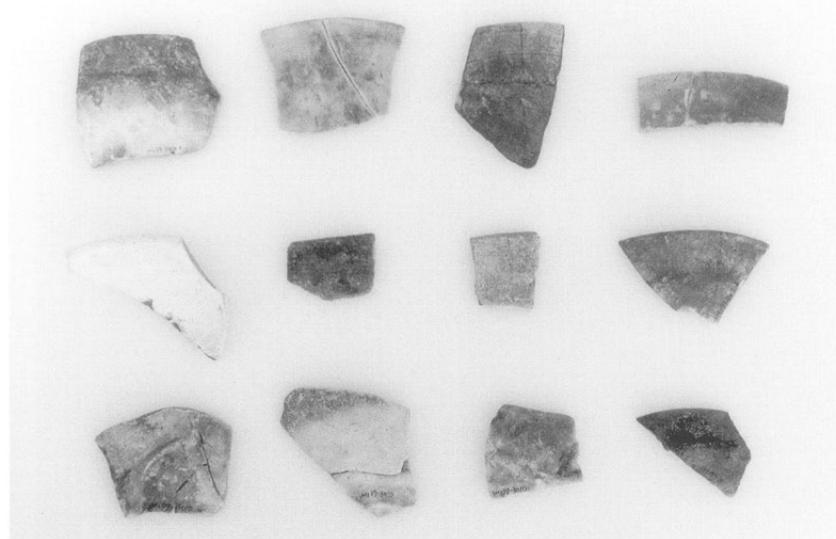
貝掛遺跡97-1区 出土遺物



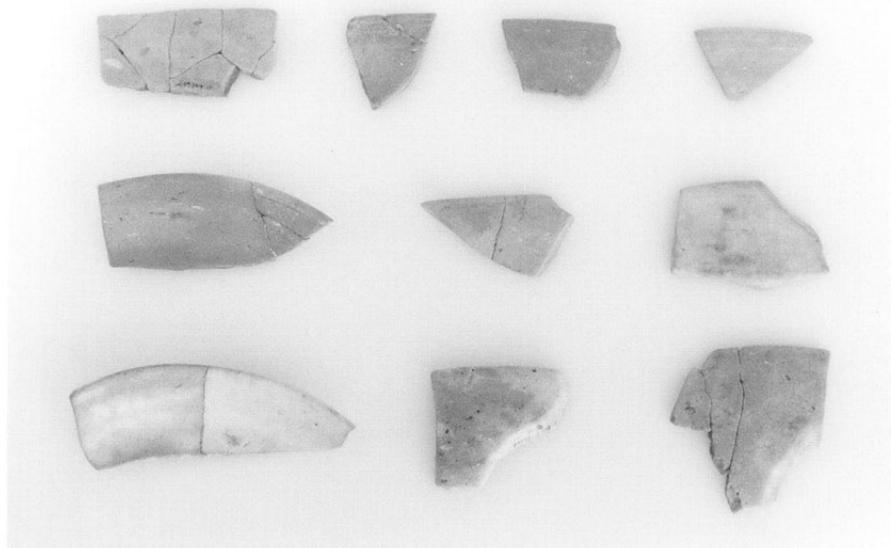
貝掛遺跡97-1区 出土遺物



箱作今池遺跡97-2区 出土遺物



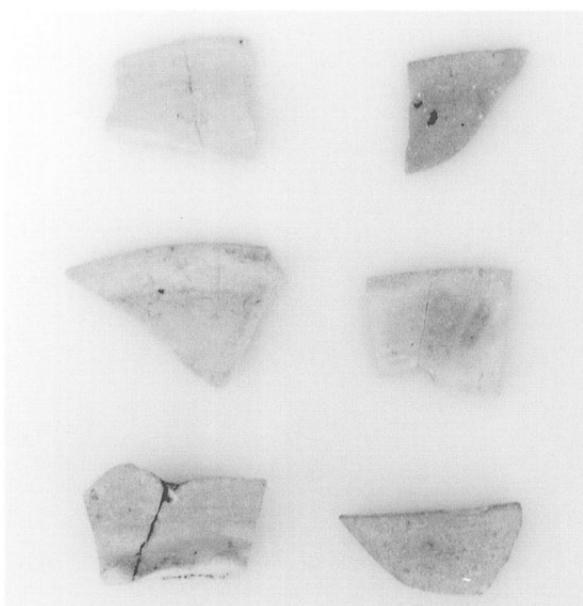
箱作今池遺跡97-3区 出土遺物



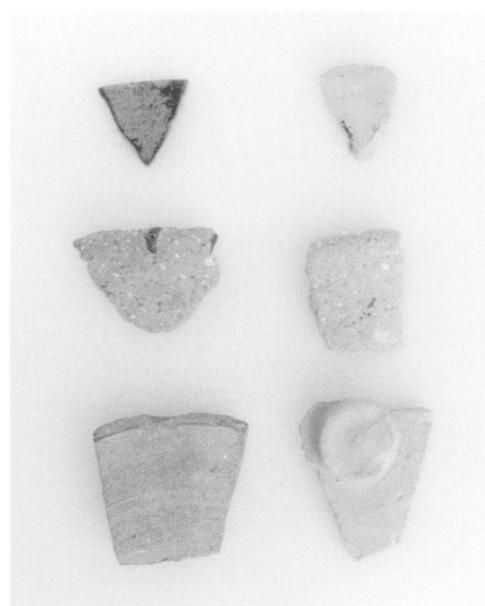
箱作今池遺跡97-3区 出土遺物



箱作今池遺跡97-3区 出土遺物



箱作今池遺跡97-3区 出土遺物



田山遺跡96-1区 出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告 XXIII

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XIII

1998年3月

発 行：阪南市教育委員会社会教育課
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：西岡総合印刷株式会社
和歌山市吹屋町5丁目54